

ClassCat Cute® Server Manager 1.0

Professional Edition

ユーザマニュアル

Product Release : rc 0x00

Last Update : 04-Jun-04



(株)クラスキャット

<http://www.azi.co.jp/>
<http://www.classcat.com/>

Copyright © 2003-2004 ClassCat Co.,Ltd. All rights reserved.

ClassCat, ClassCat Cute は、株式会社クラスキャットの登録商標です。

Copyright © 1997-2002 Sun Microsystems, Inc., 901 San Antonio Road, Palo Alto, California 94303, U.S.A. All rights reserved.

本製品に使われているテクノロジーに関する知的所有権は、Sun Microsystems,Inc. が所有しています。当該知的所有権は、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている米国特許、米国およびその他の国で取得済みまたは申請中の特許なのがすべて含まれます。

本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Sun Microsystems,Inc. またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア（フォントに関するテクノロジーを含む）は、著作権を有する当該各社より Sun 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company,Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company,Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java、JavaScript、Sun Cobalt、Sun Cobalt RaQ、Sun Cobalt のロゴマークは、Sun Microsystems,Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Netscape および Netscape Navigator は、Netscape Communication Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

PostScript は、Adobe Systems,Incorporated の米国およびその他の国における商標または登録商標で、特定の管轄権に登録されています。

Linux は Linus Torvalds 氏の商標です。

Federal Acquisitions: Commercial Software – Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本書は、「あるがまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

序章

このユーザマニュアルは、ClassCat Cute® Server Manager を設定するためのガイドです。Microsoft Windows、Macintosh、またはその他のオペレーティングシステム、Netscape Navigator™、Microsoft Internet Explorer、またはその他のウェブブラウザに関する知識が必要です。

このマニュアルは、以下の章と付録で構成されています。

第1章 「はじめに」では、ClassCat Cute サーバの機能について説明します。

第2章 「ClassCat Cute® Server Manager の初期設定」では、ClassCat Cute サーバのネットワークの設定と初期設定について説明します。

第3章 「サービス」では、ClassCat Cute サーバのサービスについて説明します。

第4章 「サーバの管理」では、[サーバの管理] 画面の機能について説明します。

第5章 「サイトの管理」では、ClassCat Cute サーバの [サイトの管理] 画面の機能について説明します。

第6章 「個人プロフィール」では、アカウント情報の表示方法について説明します。

目次

序章	4
はじめに	8
ClassCat Cute サーバのサービス.....	9
文書	9
ClassCat Cute® Server Manager の初期設定	10
ネットワーク環境の設定.....	10
Sun Cobalt RaQ 550 サーバとの機能上の相違点.....	13
リカバリー CD の利用方法について.....	14
サービス	15
個人プロフィールの管理.....	15
ClassCat Cute サーバで電子メールを送受信する.....	15
電子メールエイリアス	16
電子メールリレー	17
POP-before-SMTP 機能.....	18
メーリングリスト	19
ウェブページのパブリッシュ	19
HTML エディタの使用	19
CGI スクリプト	20
サーバサイドのスクリプト言語.....	20
FTP によるホームページのパブリッシュ.....	21
DNS.....	22
SNMP (Simple Network Management Protocol)	23
サーバの管理	24

管理者パスワードのリセット.....	25
サーバの管理へのアクセス.....	25
サーバの管理者.....	27
ネットワークサービス.....	29
ウェブ.....	29
FTP.....	30
電子メールサーバ.....	31
[基本画面].....	32
[詳細画面].....	33
DNS.....	37
SNMP.....	37
システムの設定.....	39
TCP/IP.....	39
IP アドレス割当.....	43
時刻.....	45
情報.....	46
利用状況.....	46
ネットワーク.....	46
ウェブ.....	47
FTP.....	48
電子メール.....	49
ディスク.....	49
アクティブモニタ.....	51
アクティブモニタアイコン.....	51
動作状況メニューの選択肢.....	51
設定メニューの選択肢.....	53
サイトの管理	55
はじめに.....	55
管理者の権限.....	55
サーバの管理画面 (サーバ管理者).....	57
仮想サイトの検索.....	58
仮想サイトのリスト.....	59

仮想サイトテンプレートの編集	62
サイトの管理画面 (サイト管理者).....	66
仮想サイトの管理.....	67
ユーザの管理	68
[ユーザのリスト].....	68
[サイトユーザのインポート/エクスポート]	73
メーリングリスト.....	75
一般設定.....	79
サービス.....	80
[ウェブ].....	80
[匿名 FTP].....	82
[電子メール].....	83
[シェル].....	84
利用状況.....	85
[ウェブ].....	85
[FTP].....	86
[電子メール].....	86
[ディスク].....	87
[設定].....	87
個人プロフィール.....	89
アカウント情報.....	89
電子メール.....	90
電子メールの転送.....	91
[電子メール転送を有効にする].....	91
[電子メール転送を無効にする].....	92
不在時自動応答の設定.....	92
[不在時自動応答を有効にする]	92
[不在時自動応答を無効にする]	92
ディスクの使用状況	93
ディスクの使用状況の表示.....	93

はじめに

この度は、ClassCat Cute® Server Manager をご採用いただきまして誠にありがとうございます。ClassCat Cute サーバは、パワフルで用途の広いネットワークサーバです。既存のネットワークに簡単に適合し、電子メールとウェブホスティング用の仮想ホスティング機能を提供します。

ClassCat Cute サーバは、様々な仮想ホスティングおよび動的コンテンツ作成機能を搭載し、インターネットウェブサーバ、電子メールサーバ、FTP サーバ、DNS サーバとしてご利用戴けます。初期設定(「第2章 ClassCat Cute Server Manager の設定」参照)が済むと、イントラネットまたはインターネットを介したセキュアなブラウザ接続によりサーバやサイトの管理操作を簡単に行えます。

サーバのすべてのサービスは、ウェブ管理画面を使って設定できます。管理者は次の権限をもちます。

- 仮想サイトの管理
- 電子メール、FTP、Telnet、SNMP、DNS サービスの設定
- ネットワークパラメータの設定
- システムのサービスおよびリソースの監視

管理画面では、名前ベースまたは IP アドレスベースで仮想サイトの追加、設定、監視を行えます。仮想サイトの設定オプションを以下に示します。

- ユーザの追加
- メーリングリストの作成
- CGI、SSI、PHP、Telnet、FTP の設定

さらに、サーバの管理画面では、トラフィックレポートやディスクの使用状況などを含む、サイトの動作状況を表示できます。仮想サイトの各ユーザは、以下のような機能にアクセスできます。

- 電子メールの設定
- 個人情報の設定
- 使用状況データ

ClassCat Cute サーバのサービス

ClassCat Cute サーバは以下のような機能を提供します。

- ウェブパブリッシング：ユーザのために用意された各種ウェブパブリッシング機能にアクセスできます。
- 電子メール：ClassCat Cute サーバの電子メールサービスを使って、ネットワーク内外の個人と通信できます。各ユーザのための自動転送や自動応答機能も備えています。さらに、外部ユーザを含めたメーリングリストを作成することもできます。ClassCat Cute サーバの電子メールサービスへのアクセスには、標準的な電子メールクライアントソフトウェアをご利用ください。

上記のサービスは、エクストラネット環境、イントラネット環境、またはインターネット環境で利用できます。

文書

ブラウザベースのユーザインターフェイスから、PDF 形式のユーザマニュアルにアクセスできます。ユーザマニュアルの PDF ファイルにアクセスするには、右上隅にあるヘルプアイコンをクリックしてください。新しいブラウザウィンドウが開き、入手可能な各国語の PDF ファイルのリストが表示されます。ご希望の言語の PDF ファイルへのリンクをクリックします。PDF ファイルは、ブラウザウィンドウ上で開くことも、パソコンに保存することもできます。

ClassCat Cute® Server Manager の初期設定

ネットワーク環境の設定

ClassCat Cute® Server Manager は出荷時に、仮の IP アドレスを設定しています。実際のご利用環境に合わせて正しいネットワーク情報を設定する必要があります。

ClassCat Cute Server Manager の初期設定は以下の通りです。

LAN-0

IP アドレス: 192.168.0.1 サブネットマスク: 255.255.255.0

LAN-1

IP アドレス: 192.168.1.1 サブネットマスク: 255.255.255.0

1. 次の情報をネットワーク管理者から入手してください。
 - ホスト名
 - ドメインネーム
 - DNS サーバ
 - IP アドレス
 - サブネットマスク
 - ゲートウェイアドレス

2. 以下のものをご用意ください。
 - ネットワーク I/F および Internet Explorer 6.x 以上のブラウザを搭載したパーソナルコンピュータ
 - ネットワーク HUB と ネットワークケーブル(または、クロス・ネットワークケーブル)

3. パーソナルコンピュータの設定
 - 1) 本製品の LAN-0 ネットワーク端子とパーソナルコンピュータのネットワーク端子をネットワークケーブルで接続します。
 - 2) パーソナルコンピュータのネットワークの TCP/IP のプロパティを以下の通り設定してください。
 - ・ IP アドレス: 192.168.0.2 ~ 192.168.0.254 の任意のアドレス
 - ・ サブネットマスク: 255.255.255.0

4. パーソナルコンピュータのブラウザを起動して、以下の URL を指定します。

http://192.168.0.1/admin/

下記のログイン画面が表示されたら、ユーザ名に「admin」、パスワードに「admin」を入力して「ログイン」をクリックします。



5. ログインが正常に行われると下記の画面が表示されます。



6. [サーバの管理] > [システムの設定] > [TCP/IP] を選択し、「ホスト名」、「ドメイン名」、「DNS サーバ」、「IP アドレス」、「サブネットマスク」を指定して「保存」ボタンをクリックしてください。



7. メイン仮想サイトの作成

「TCP/IP の設定 (6)」で設定したホスト名に該当する、**メイン仮想サイト**を作成します。「サイトの管理」タブを選択した後、「仮想サイトのリスト」の追加ボタンをクリックします。IP アドレス、ホスト名とドメイン名には、「TCP/IP の設定」で設定した値を使用してください。

8. DNS の設定

[サーバの管理] > [ネットワークサービス] > [DNS]

DNS サービスの有効/無効設定が、実際の named の起動/停止状況に同期していることを確認してください。

必要に応じて、メイン仮想サイトについては、逆引を設定した方がよいでしょう。レコードを追加した後、「変更を適用」ボタンをクリックするのを忘れないでください。

(ご注意)

DNS 使用時に、サーバ・ゲートウェイが正しく設定されていないと、動作に支障が出る場合がありますので、ご注意ください。

以上で基本設定は終了です。

設定した IP アドレスで接続しなおして、実際の運用環境に合わせて設定を行ってください。
これ以降は、第4章 サーバの管理 システムの設定等をご参照ください。

Sun Cobalt RaQ 550 サーバとの機能上の相違点

以下の機能については、ClassCat Cute(R) Server Manager Professional Edition 1.0 ではサポートしていません。

[BlueLinQ]

Sun Cobalt RaQ550 自身のソフトウェアのアップデートやアプリケーションのインストールを行う BlueLinQ はサポートしていませんが、「Qloc Engine」オプションを追加することにより同等な機能を実現しております。

[FrontPage]

FrontPage サーバエクステンションは、オープンソースとして公開されていないので、サポートしていません。

[サードパーティ製ソフトウェア]

Knox Arkeia / Legato NetWorker はサポートしていません。

[ASP(Active Server Pages)]

「ネットワークサービス」サブメニュー内の「ASP」機能はサポートしていません。

[スキャン検出、バッファオーバーフロー、SSL]

スキャン検出、バッファオーバーフロー、SSL はサポートしていません。

[帯域の上限]

「システムの設定」サブメニュー内の「帯域の設定」機能はサポートしていません。

[電源・UPS]

「システムの設定」サブメニュー内の「電源」、「UPS」機能はサポートしていません。

リカバリー CD の利用方法について

本製品にはリカバリーCD が添付されております。ハードウェア障害などが発生した場合、リカバリーCD を用いて、システムを出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリーCD の利用方法は下記の通りです。

- 1) リカバリーCD を CD 装置にセットして、リカバリーCD からブート
- 2) ブートしたら以下のコマンドを入力
 - 2.1) # cd /etc/recovery
 - 2.1) # ./start-restore.sh
- 3) リカバリーCD を CD 装置から取り除く
- 4) システムをリブート

以上で、出荷時の設定でシステムが起動します。

注意)ハードウェアの環境(メモリ、ハードディスク容量など)が変わった場合は、リカバリーCD を用いることはできませんので注意が必要です。

サービス

本章では、ClassCat Cute® Server Manager で利用できるサービスについて簡単に説明します。

次のようなサービスが利用できます。

- ウェブパブリッシング（「FTP によるホームページのパブリッシュ」）
- SNMP (Simple Network Management Protocol)（「SNMP (SimpleNetwork Management Protocol)」と「SNMP」参照）
- ウェブ、電子メール、利用状況の統計、FTP 設定を含む各仮想サイトの管理（第5章「サイトの管理」参照）
- PHP スクリプト、CGI (Common Gateway Interface) の有効化（第5章「仮想サイトのリスト」）
- DNS (Domain Name System) サーバ

個人プロフィールの管理

ClassCat Cute® Server Manager の登録ユーザは、次のような標準的なウェブブラウザを使って、各自の個人プロフィールを管理し、パスワードの変更などを行えます。

- Macintosh OS 9 : Internet Explorer 5 または Netscape 4.78
- Macintosh OS X : Internet Explorer 5.1
- Windows 98/NT/2000 : Internet Explorer 5.5、6.0 または Netscape 4.78

[個人プロフィール] 画面からは次の機能にアクセスできます。

- アカウント情報
- 電子メール
- ディスクの使用状況

詳細については、第6章「個人プロフィール」をご参照ください。

ClassCat Cute サーバで電子メールを送受信する

ClassCat Cute® サーバの持つ電子メール機能をフルに活用するには、電子メールパラメータを正しく設定しておく必要があります。また、ClassCat Cute® サーバで電子メールを送受信するには、

各ユーザが自分のパソコン上で電子メールソフトを正しく設定する必要があります。

電子メールエイリアス

ClassCat Cute® Server Manager の各登録ユーザには、一意のユーザ名（例：hisao、syasuda、aki.omi など）が必要です。このユーザ名を使って、電子メールの送受信を行います。

電子メールエイリアス機能を利用すると、新しいユーザアカウントを作らずに任意の電子メールアドレスを設定できます。エイリアス宛の電子メールは、既存の電子メールアドレスに転送されます。

1人のユーザが複数のエイリアスを設定する場合は、各エイリアスごとに改行してください。エイリアスには、半角の小文字、英数字、ピリオド（.）、ハイフン(-)、アンダースコア（_）のみが使用できます。

たとえば、XYZという会社で ClassCat Cute® サーバを使用していて、そのドメインネームがxyz.com とすると、ClassCat Cute® サーバのユーザの電子メールアドレスは、<ユーザ名>@xyz.com になります。「安田学」というユーザにユーザ名「myasuda」を与えると、電子メールアドレスは「myasuda@xyz.com」になります。

1つのユーザ名に複数の電子メールエイリアスを設定することもできます。例えば、渋谷寿夫が「shibuya」というユーザ名を持っている場合、「hshibuya@xyz.com」や「hisao.shibuya@xyz.com」などのエイリアスを設定できます。この社員の趣味がサッカーであれば、「striker@xyz.com」というエイリアスを使うこともできます。これらすべてのエイリアスには、xyz.com の <shibuya>というユーザのもので、それらのエイリアスに宛てられた電子メールはすべて「shibuya@xyz.com」に配送されます。

ただし、1人のユーザが多数のエイリアスを使用すると、問題が生じることもあります。新規ユーザを追加しようとした場合に、ClassCat Cute® Server Manager で指定したユーザ名がすでに使用されている場合、その<ユーザ名>は他のユーザによって使用されていることを知らせる警告メッセージが、画面下のヘルプに表示されます。このような場合、ClassCat Cute® Server Manager は [新規ユーザ] のエントリを受け付けません。

前の例でいうと、渋谷寿夫が XYZ 会社の新入社員であると仮定します。ユーザ名に「hshibuya」を指定すると、ClassCat Cute® Server Manager のヘルプに次のようなメッセージが表示されます。

「ご指定のユーザ名は、このシステム上で別のユーザが既に使用しています。
別のユーザ名をご指定ください。」

ClassCat Cute® Server Manager では、入力したエイリアスが検証されます。入力したエイリアスがユーザ名、他のユーザのエイリアス、メーリングリスト名として既に使用されている場合、ClassCat Cute® Server Manager ではこの新しいエイリアスは許可されません。

ClassCat Cute® サーバ管理者は、webmaster@xyz.com、info@xyz.com、sales@xyz.com、comments@xyz.com、support@xyz.com など、特定のユーザ名を指定するエイリアスを設定できます。

電子メールリレー

SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サービスは、POP (Post Office Protocol)、telnet、FTP (File Transfer Protocol) などとは異なり、SMTP 接続時にユーザの認証を行いません。これは、インターネット上にあるすべてのメールサーバが自由に接続して電子メールを送信できるようにするためです。

ClassCat Cute® サーバは、登録されているユーザアカウントまたは設定されているエイリアス電子メールアカウント宛の電子メールを受信します。また、メールのリレーが許可されているホスト (クライアント PC) からのメールのみを他のドメインヘリレー (転送) します。したがって、リレーを許可するホスト名、ドメインネーム、IP アドレス、ネットワークなどを指定する必要があります。ネットワークは IP アドレスの範囲として指定できます。クライアントの IP アドレスを1つずつリストすることもできますが、それではかなり手間がかかります。

ご注意 : co.jp、com、edu、net といったトップレベルのドメインアドレスを指定することも可能ですが、これはお勧めできません。そのようなリレーを許可すると、co.jp、com、edu、net などを持つあらゆるホストがこの ClassCat Cute® サーバを通じて電子メールをリレーできるようになるからです。このようにリレーされたメールは SPAM メールと呼ばれます。SPAM メールの送信者は、よくそのような第三者サーバを使ってメールをリレーすることにより、発信元を隠そうとします。

その結果、SPAM メールはこの ClassCat Cute® サーバから発信されたようにみられ、この ClassCat Cute® サーバが SPAM サイトのブラックリストに入れられる可能性があります。プ

ラックリストに載ると、ほかのメールサーバではこのサーバからのメールをリレーしなくなり、この ClassCat Cute® サーバから送られたメールの多くが無視されるようになります。

外部ネットワークからインターネットを通じてこのサーバにアクセスする登録ユーザがいる場合には、そのユーザが契約している ISP (Internet Service Provider) で使われているリモートアクセス (ダイヤルアップ) 機器のネットワークアドレスを問い合わせてください。例えば、ISP が 209.43.21.5 ~ 209.43.21.24 および 209.48.66.5 ~ 209.48.66.16 のネットワークを使っているのであれば、[電子メールパラメータ] メニューの [電子メールのリレーを許可するホスト/ドメイン] フィールドに「209.43.1.0」と「209.48.0.0」を入力します。もしその ISP が全国に 30 の POP (Points-Of-Presence : アクセスポイント) を持っており、登録ユーザはそのどれを使ってでもダイヤルインできる、というような場合には、その 30 のネットワークアドレス全部をリレー許可する必要があります。そうしないと、その登録ユーザは ClassCat Cute サーバを通じて電子メールを送信できません。

ご参考 : デフォルトで、ClassCat Cute® サーバのドメインネームは電子メールのリレーを許可されています。

ClassCat Cutes® サーバが属しているドメインから発信される電子メールが ClassCat Cute® サーバ経由でリレーされるのを許可しない場合には、[これらのホスト/ドメインからの電子メールの受信を拒否する:] フィールドに、ClassCat Cute® サーバのドメインネームを入力します。

これにより、電子メールのダウンロードはできますが、ClassCat Cute® サーバ経由で電子メールを送信できなくなります。

POP-before-SMTP 機能

ClassCat Cute® Server Manager には、SMTP の前に POP 認証を許可するオプションがあります。

通常、電子メールは、ネットワーク内でのリレーのみを許可します。しかし、移動が多く、別の場所からの接続が必要なユーザ (セールススタッフや現場担当エンジニアなど) に対して、ClassCat Cute® サーバ経由の電子メールのリレーを許可する必要の生じる場合もあります。その場合、SPAM メールのリレーに ClassCat Cute® サーバが使用されないように保護するには、SMTP 接続する前に、POP によるユーザの認証を行います。

ユーザが POP3 電子メールサーバにログインすると、ClassCat Cute® サーバが接続元の IP アドレスを認識し、その IP アドレスからのリレーを一定期間許可します。移動が多いユーザは、メールサーバの「ロックを解除」するよう設定する必要がありますが、メールソフトの設定を変更する必要はありません。

POP-before-SMTP を有効にすると、指定した IP アドレスはログイン後 30 分間リレーを許可されます。

メーリングリスト

メーリングリストを使うと、特定のユーザグループに属する各ユーザのアドレスを個別に入力しなくても、グループ内のユーザ全員にメッセージを一括して送信できます。ClassCat Cute® サーバ上の登録ユーザだけでなく、ClassCat Cute® サーバ外部のユーザもメーリングリストに含めることができます。メーリングリストの設定および使用方法については、「メーリングリスト」をご参照ください。

ウェブページのパブリッシュ

ClassCat Cute® サーバは、各個人ユーザに対して、自動的にデフォルトホームページを提供します。また、広範なウェブパブリッシュ機能をサポートしているため、初心者から上級者まで、誰でも独自のウェブページを作成してパブリッシュすることができます。

ご参考：自分のホームページを表示するには、URL フィールドに「http://<ホスト名>~<ユーザ名>/」と入力します。<ホスト名>には ClassCat Cute® サーバの正式なドメインネーム、<ユーザ名>には ClassCat Cute® サーバ上での自分のユーザ名を入力します。

ユーザ名の前に必ず波ダッシュ (~) を入力してください。

HTML エディタの使用

一般的な HTML エディタや、HTML パブリッシュ機能を持つワープロや DTP ソフトを利用して、ウェブページを作成できます。ウェブページは自分のデスクトップコンピュータで作成・リンクし、次

に FTP アプリケーションを使用して ClassCat Cute® サーバの該当するサブディレクトリにコピーします（「FTP によるホームページのパブリッシュ」をご参照ください）。

CGI スクリプト

ClassCat Cute® サーバでは、Perl や C などのプログラミング言語で書かれた CGI (Common Gateway Interface) スクリプトだけではなく、UNIX® シェルスクリプトもサポートしています。

CGI スクリプトを利用すると、特定のユーザ入力に対応してウェブページを生成するサーバサイドの CGI スクリプトを構築することによって、非常にインタラクティブで高度なウェブベースのアプリケーションを開発できます。簡単なスケジュールや会議用アプリケーションのほか、高度な電子商取引システムにも利用できます。

ユーザは、まず CGI スクリプトを自分のパソコンで作成し、CGI スクリプトを「実行可能」に設定できる FTP クライアントを使って、ClassCat Cute® サーバに転送します。

CGI スクリプトのファイルの拡張子は、.pl または .cgi である必要があります。

FTP クライアントを用いて .pl および .cgi ファイルをアップロードします。転送時には ASCII モードを指定してください。CGI ファイルを ClassCat Cute® サーバにアップロードしたら、FTP を使ってそのファイルを実行可能にします。または、Telnet を使って ClassCat Cute® サーバにアクセスし、ユーザ名とパスワードを入力してログインした後、次のコマンドを実行して CGI ファイルに実行可能属性を与えることもできます。

```
chmod 755 <ファイル名>.cgi
```

Perl へのパスは

```
/usr/bin/perl/ です。
```

サーバサイドのスクリプト言語

ClassCat Cute® サーバでは、PHP のスクリプト言語がサポートされています。これらの機能は、サイトごとに有効にできます（[サイトの管理]>[サービス]>[ウェブ]の[ウェブ設定]テーブルで設

定)。

CGI スクリプトと同様に、ユーザは、まず PHP スクリプトを自分のパソコンで作成し、FTP クライアントを使って ClassCat Cute® サーバに転送します。CGI スクリプトと違い、PHP スクリプトでは実行許可は必要ありません。ただし、ウェブサーバがこれらのスクリプトを読み込めることを確認してください。必要に応じて、次の telnet コマンドを実行してファイルに読み込み許可を与えてください。

```
chmod 664 <ファイル名>.php
```

ウェブサーバでこれらのスクリプトを実行するためには、PHP スクリプトには .php という拡張子を付ける必要があります。

ClassCat Cute® サーバは、PHP 埋め込みスクリプトをサポートするよう設定されています。前にも述べたように PHP ファイルは、ファイル名の拡張子が .php になっていれば、サイトのどのディレクトリにも保存できます。

FTP によるホームページのパブリッシュ

ユーザは、パソコン上でホームページをデザインし、FTP ソフトウェアを使ってそのファイルを ClassCat Cute® サーバに転送するだけで、ネットワーク上に自分のホームページをパブリッシュできます。

まず、次の情報が手元にあることを確認してください。

- ClassCat Cute® サーバのホスト名または IP アドレス
- 自分のユーザ名とパスワード
- メインページの保存に使うファイル名 (デフォルトは index.html)

まず、FTP ソフトウェアを使って ClassCat Cute® サーバへアクセスし、HTML ファイルをアップロードします。アップロード手順については、お使いの FTP ソフトウェアのヘルプ機能をご利用ください。

デフォルトでは、FTP ソフトウェアでアップロードしたファイルは、各ユーザの個人ディレクトリに保存されます。ディレクトリパスは次のとおりです。

/home/sites/<サイト名>/users/<ユーザ名>

ここで <サイト名> は自分の仮想サイトの完全なドメインネームを、<ユーザ名> は自分のユーザ名を示します。

サイト管理者へのご参考 : サイトのホームページは、次のディレクトリにアップロードする必要があります:

/home/sites/<サイト名>/web

このディレクトリにファイルをアップロードできるのは、サイト管理者とサーバ管理者だけです。このディレクトリを指定しないと、アップロードしたホームページが自分の個人ディレクトリに保存され、ブラウザからアクセスできないこともあります。

サイト管理者は、FTP を使って /web ディレクトリにあるサイトルートコンテンツにアクセスし、アップデートできます。サイトのウェブルートは、<http://<サイト名>/> からアクセスできます。

また、サイト管理者は、FTP を使って /users/<ユーザ名>/web ディレクトリにある個人ユーザのホームページにアクセスし、アップデートできます。個人ホームページは、<http://<サイト名>/~<ユーザ名>/> からアクセスできます。

サイト管理者ではない一般のユーザは、FTP を使って /web ディレクトリにある自分の個人ホームページをアップデートできます。

DNS

ドメインネームシステム (DNS) は、インターネットにとって不可欠です。ClassCat Cute® サーバ上で DNS を正しく設定することは非常に重要です。

ネットワーク管理者が ClassCat Cute® サーバを DNS サーバとして使用している場合は、デスクトップコンピュータの TCP/IP 設定の [DNS サーバ] フィールドに ClassCat Cute® サーバの IP アドレスを入力できます。

SNMP (Simple Network Management Protocol)

SNMP (Simple Network Management Protocol) は、ほとんどの TCP/IP ネットワークで使用されているネットワーク管理プロトコルです。SNMP は、ネットワークデバイスの監視と管理のほか、ネットワーク上の設定情報、統計情報の収集、性能、セキュリティを管理するためのプロトコルです。SNMP を使って ClassCat Cute® サーバにアクセスする方法については、「SNMP」をご参照ください。

サーバの管理

本章では、ClassCat Cute® Server Manager の管理者だけが実行できるサーバの管理機能について説明します。ユーザ名 admin を使用する管理者には、ClassCat Cute Server Manager の全面的な管理権限が与えられます。

ClassCat Cute Server Manager 管理者は次の業務を行います。

- 他のサーバ管理者の作成
- ネットワーク設定の入力
- 各種サービスの有効化と無効化
- サイトの追加と削除
- ユーザとメーリングリストの追加と削除
- 電子メールによるシステム警告通知メッセージの受信

ご参考: 本章で説明する手順概略では、たいてい最初に画面上のメニューバーにある [サーバの管理] タブをクリックし、次に左側のメニューバーから該当する項目をクリックします。

各手順をわかりやすく説明するため、メニューコマンドは括弧 ([]) に入れて示します。各項目は、右向きのアングルブラケット (>) で区別してあります。

例えば、[サーバの管理] > [システムの設定] > [TCP/IP] と書かれている場合は、画面上のメニューバーの [サーバの管理] タブをクリックし、次に左側のメニューバーの [システムの設定] というメニューカテゴリをクリックし、最後に [TCP/IP] というサブメニュー項目をクリックすることを意味します。

ご参考: 以下のフィールドには、全角文字は使えません。

- ユーザ名
- 電子メールアドレスと電子メールエイリアス
- ホスト名とドメインネーム

ユーザの [氏名] フィールドと [よみがな] フィールドには全角文字を使えます。

[サーバの管理] 画面は、「admin」というユーザ名でログインすると表示されます。また、サーバの管理権限を与えられているユーザ名 ([サーバの管理] > [サーバの管理者]) でログインしても同様の画面が表示されます。一般ユーザのアカウント管理画面には、[個人プロフィール] タブの

みが表示されます。サイト管理者のユーザ名でログインすると、さらに [サイトの管理] タブが表示されます。サーバ管理者としてログインすると、さらに [サーバ管理] タブが表示されます。

管理者パスワードのリセット

ClassCat Cute サーバ管理者のパスワードを変更したい場合は、サーバデスクトップ UI から変更できます。

サーバの管理へのアクセス

ClassCat Cute サーバの [サーバの管理] タブにアクセスするには、次の操作を行います。

1. ブラウザに次の URL を入力します。

<http://<ホスト名>.<ドメインネーム>/login/>

2. ログイン画面が表示されたら、次のユーザ名を入力します。

admin

admin 管理者および admin 管理者が追加したサーバ管理者だけが、[サーバの管理] 画面にアクセスできます。その他のユーザ名を入力すると、一般ユーザ向けのサーバデスクトップ UI が表示されます。admin 管理者は、各サーバ管理者にレベルの異なるアクセス権を与えることができます。

3. admin のパスワードを入力します。

4. ClassCat Cute サーバへのログイン時に安全な接続を確立するには、[セキュア接続] ボックスをチェックします。これにより、ブラウザと ClassCat Cute サーバの間に SSL (Secure Sockets Layer) 接続が確立されます。セキュア接続を有効にし、ClassCat Cute サーバを介して送受信されるデータがすべて暗号化されるようにすることをお勧めします。

お使いのブラウザで SSL がサポートされていない場合や、ClassCat Cute サーバへのアクセスに問題のある場合には、セキュア接続を有効にしないで接続してみてください。ブラウザによっては SSL を正しく処理できないものもあり、その場合には、SSL を使用しないでアクセスするしかありません。

5. [ログイン] をクリックします。
6. ユーザーインターフェイスの [サーバの管理] 画面が表示されます。

図：サーバの管理画面



[サーバの管理] 画面の左側の管理メニューをすべて展開すると、以下のメニュー項目が表示されます。管理者は、[サーバの管理] 画面からこれらの機能とサービスを管理できます。本章では次の各項目について説明します。

- サーバの管理者
- ネットワークサービス
 - * ウェブ
 - * FTP
 - * 電子メール
 - * DNS
 - * SNMP
 - * シェル
- システムの設定
 - * TCP/IP
 - * IPアドレス割当

- * 時刻
- * 情報
- 利用状況
 - * ネットワーク
 - * ウェブ
 - * FTP
 - * 電子メール
 - * ディスク
- アクティブモニタ
 - * 動作状況
 - * 設定

サーバの管理者

[サーバの管理者] 画面では、サーバ管理者アカウントの作成と管理を行います。admin アカウントとは別にサーバ管理者アカウントを作成すると、admin 管理者は、信頼のおける第三パーティにサーバの管理を許可できます。サーバ管理者アカウントは、すべての admin 管理者権限を持つように設定できます。ただし、サーバ管理者アカウントの管理は、admin アカウントでしかできません。また、ClassCat Cute Server Manager の管理機能に制限を設定して、サーバ管理者アカウントを作成することもできます。

新規サーバ管理者アカウントを追加するには、[追加] ボタンをクリックします。
図に示す画面が表示されます。

図 新規サーバ管理者を追加テーブル

新規サーバ管理者を追加					
ユーザの情報					
氏名	<input type="text"/>				
よみがな	<input type="text"/>				
ユーザ名	<input type="text"/>				
パスワード	<input type="password"/> <input type="password"/> (再度入力)				
最大許容ディスク容量 (MB)	<input type="text" value="20"/>				
管理者オプション					
追加的アクセス権 (省略可)	<table border="1"><thead><tr><th>許可する追加的権限</th><th>許可しない権限</th></tr></thead><tbody><tr><td><input type="text" value="空欄"/></td><td>IP アドレス割当 ルートアクセス</td></tr></tbody></table>	許可する追加的権限	許可しない権限	<input type="text" value="空欄"/>	IP アドレス割当 ルートアクセス
許可する追加的権限	許可しない権限				
<input type="text" value="空欄"/>	IP アドレス割当 ルートアクセス				

[新規サーバ管理者を追加] テーブルは、次の2つの領域に分かれています。

- ユーザの情報
- 管理者オプション

ユーザ情報フィールドを設定するには、次の操作を行います。

1. 新規サーバ管理者の氏名、よみがな、ユーザ名、パスワードを入力します。
2. このユーザが、サーバ上で使用できる最大ディスク容量 (MB) を入力します。このフィールドを空欄のままにすると、このユーザが使用できるディスク容量は無制限となります。

管理者オプションを設定するには、次の操作を行います。

1. サーバ管理者アカウントに権限を追加するには、[許可しない権限] 欄から権限を選び、[許可する追加的権限] 欄へ移動します。
 - * IP アドレス割当 : このサーバに適切な IP アドレス範囲を指定するときに使います。詳細については、「IP アドレス割当」をご参照ください。
 - * ルートアクセス : Telnet 接続を使ったサーバへのルートアクセスをサーバ管理者に許可するときに使います。

2. [保存] ボタンをクリックします。

ご参考：この領域では、通常は admin にだけ許可されている特定の権限をサーバ管理者にも許可するよう設定できます。

ネットワークサービス

この画面では、サーバの各種サービスを管理します。次のサブメニューがあります。

- ウェブ
- FTP
- 電子メール
- DNS
- SNMP
- シェル

ウェブ

[ウェブ] メニュー項目を選べると、図のような [ウェブの設定] テーブルが表示されます。

図：ウェブの設定テーブル

ウェブの設定	
ホストネーム問い合わせ	<input type="checkbox"/>
最大同時接続数	<input type="text" value="124"/> (1 - 124)
最小スベアサーバ数	<input type="text" value="10"/> (1 - 50)
最大スベアサーバ数	<input type="text" value="25"/> (1 - 62)

● 保存

1. [ウェブの設定] テーブルを設定するには、次の操作を行います。
 - **ホストネーム問い合わせ**：この機能を有効にすると、ウェブサーバのホスト名を検索できます。クライアントが ClassCat Cute サーバに接続する際にクライアント IP アドレス

の DNS 検索が行われます。ホスト名情報はログファイルに記録され、ClassCat Cute サーバのウェブ利用率統計にも使われます。この機能を使わないと、ウェブサーバのドメイン利用率統計にはクライアントの IP アドレスのみが表示されます。

警告 : このオプションを有効にすると、ウェブサーバのパフォーマンスが低下します。

- **最大同時接続数** : サーバが同時に処理できる最大リクエスト数を指定します。各接続には、それぞれ個別のウェブサーバ処理が必要です。この数を超えるリクエストが届くと、サーバが混雑している旨を示すメッセージがクライアントに送信されます。それにより、サーバにかかる負荷を制御できます。ウェブサーバの最大数は、サーバにインストールされている RAM 容量によって制限されます。
- **最小スベアサーバ数** : ウェブサーバの起動時または遊休時には、ここで指定する数のウェブサーバプロセスのみがウェブリクエストの処理を行います。ウェブサーバの最大数は、サーバにインストールされている RAM 容量によって制限されます。
- **最大スベアサーバ数** : 負荷が増加すると、ウェブサーバは必要に応じて追加的なプロセスを起動します。ここでは、システムが起動するプロセス数の最大値を設定できます。トラフィックの多いサイトではこの数値を大きめに設定する必要があります。ウェブサーバの最大数は、サーバにインストールされている RAM 容量によって制限されます。

2. [保存] ボタンをクリックします。

FTP

[FTP] メニュー項目を選ぶと、図のような [FTP の設定] テーブルが表示されます。

図 : FTP の設定テーブル

FTP の設定	
FTP サーバを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
最大同時接続数	<input type="text" value="12"/> (1 - 1,024)

● 保存

1. [FTP の設定] テーブルを設定するには、次の操作を行います。
 - **FTP サーバを有効にする** : このボックスをチェックすると、FTP 機能が有効になります。匿名 FTP アクセスは、guestShare で設定できます。
 - **最大同時接続数** : 1分あたりに許可する接続の最大数を指定します。接続数がこの上限に達すると、新規の接続は拒否されます。

電子メールサーバ

このセクションでは、管理者が ClassCat Cute サーバの電子メール設定を行う方法について説明します。ClassCat Cute サーバ上の電子メールクライアント設定の詳細については、「ClassCat Cute サーバで電子メールを送受信する」をご参照ください。

ClassCat Cute サーバでは、www.mydomain.com などのドメイン全体の電子メールを処理できます。デフォルトでは、各登録ユーザに ClassCat Cute サーバの電子メールアカウントが1つ与えられます。

ClassCat Cute サーバは複数のクライアント/サーバ電子メールプロトコルをサポートしていますが、仮想電子メールユーザはサポートしていません。そのため、ClassCat Cute サーバ全体を通じて、各ユーザは一意的なユーザ名を持つ必要があります。

ClassCat Cute サーバは、SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サーバとして機能し、インターネット上で電子メールを送受信することもできます。

ユーザは POP (Post Office Protocol 3) と、IMAP4 (Internet Message Access Protocol 4) を使って電子メールを受信できます。また、SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) を使って電子メールを送信できます。

重要 : 契約している ISP (インターネットサービスプロバイダ) が DNS (Domain Name System) サービスも提供している場合、ClassCat Cute サーバで電子メールを受信するには、ClassCat Cute サーバを登録ドメインのメールサーバに指定する MX (メールサーバ) レコードを ISP に作成してもらう必要があります。

ClassCat Cute サーバを大規模なネットワークに接続する場合には、このネットワークの情報についてネットワーク管理者にお問い合わせください。

DNS サーバの IP アドレスを ClassCat Cute Server Manager のネットワーク設定で指定しなければ、SMTP プロトコルは正しく機能しません。

ClassCat Cute サーバを介して専用 DNS サービスを提供する場合は、ClassCat Cute サーバ用の MX レコードを作成する必要があります。

[電子メール] メニュー項目を選ぶと、図のような [電子メールサーバの設定] テーブルが表示されます。

電子メールサーバの設定	
	基本 詳細
SMTP サーバを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
IMAP サーバを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
最大許容 IMAP 接続数	<input type="text" value="1024"/> (1 - 4,096)
POP サーバを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
最大許容 POP 接続数	<input type="text" value="80"/> (1 - 1,024)

[基本画面]

1. [電子メールサーバの設定] テーブルの [基本] 画面では、次の項目を設定します。

- **SMTP サーバを有効にする** : このボックスをチェックすると、SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サービスが有効になります。SMTP を有効にすると、このサーバを SMTP サーバとして使い、インターネット上にある他のサーバとの間で電子メールを送受信できます。また、ユーザはこの ClassCat Cute サーバを使って電子メールを送信できます。
- **IMAP サーバを有効にする** : このボックスをチェックすると、IMAP (Internet Message Access Protocol) サービスが有効になります。IMAP を有効にすると、ユーザは IMAP 対応の電子メールクライアントを使って ClassCat Cute サーバから電子メールを受信できます。IMAP を使うと、ユーザはサーバ上にある電子メールをダウンロードしないで直接読むことができます。ただし、電子メールを操作する間、ユーザはサーバへのアクセスを維持する必要があります。
- **最大許容 IMAP 接続数** : 1分あたりに許可する接続数の最大数を指定します。

接続数がこの上限に達すると、新規の接続は拒否されます。

- **POP サーバを有効にする** : このボックスをチェックすると、POP (Post Office Protocol) メール受信サービスが有効になります。POP を有効にすると、ユーザは一般的な電子メールクライアントを使ってこの ClassCat Cute サーバから電子メールを受信できます。
- **最大許容 POP 接続数** : 1分あたりに許可する接続の最大数を指定します。接続数がこの上限に達すると、新規の接続は拒否されます。

2. [保存] ボタンをクリックして、設定を保存します。

[詳細画面]

[詳細] タブをクリックすると、図のテーブルが表示されます。

図：電子メールサーバの設定 - 詳細テーブル

電子メールサーバの設定	
基本 詳細	
配信の頻度	即時 ▼
最大メールサイズ (MB) (省略可)	<input type="text"/>
送信者ドメインの強制使用 (省略可)	<input type="text"/>
スマートリレーサーバ (省略可)	<input type="text"/>
POP 認証リレー	<input type="checkbox"/>
電子メールのリレーを許可するホスト/ドメイン/IP アドレス: (省略可)	<input type="text"/>
これらのホスト/ドメインからの電子メールの受信を拒否する: (省略可)	<input type="text"/>
これらのユーザからの電子メールの受信を拒否する: (省略可)	<input type="text"/>

● 保存

1. [電子メールサーバの設定] テーブルの [詳細] 画面では、次の項目を設定します。

- **配信の頻度** : ClassCat Cute サーバ上の電子メールサーバが電子メールを配信する頻度を指定します。ClassCat Cute サーバがメッセージを待ち行列に入れ、指定の頻度で配信します。
- **最大メールサイズ (MB)** : この電子メールサーバが送受信する電子メールメッセージの最大サイズを指定できます。一定サイズを超える電子メールメッセージの送受信を禁止したい場合には、ここに 1 (MB) 以上の整数を入力してください。空欄のまま残すと、デフォルト設定 (サイズ制限なし) が使われます。
- **送信者ドメインの強制使用** : このサーバ上のユーザが送信するメールの差出人アドレスを上書きするオプションのドメインネームを指定できます。この機能は「ドメインマスカレード」とも呼ばれます。
- **スマートリレーサーバ** : ホスト名を入力します (省略可)。このホスト名を指定する

と、ClassCat Cute サーバから、指定した電子メールサーバを介してインターネットに電子メールを送信できるようになります。電子メールをリレーしたい電子メールサーバのホスト名を指定してください。

この機能は、ClassCat Cute サーバがインターネットには直接接続できないけれども、インターネットへ直接アクセスできる電子メールサーバとは通信できる、というような場合に利用します。

- **POP 認証リレー** : このボックスをチェックすると、POP 認証による SMTP リレートラストが有効になります。この機能を有効にすると、POP を使って電子メールを受信できたユーザには、その後 30 分間認証なしで SMTP サービスを使った電子メールの送信が許可されます。これは、頻繁に出先からメールを送受信する必要のあるユーザなどには非常に便利な機能です。
- **電子メールのリレーを許可するホスト/ドメイン/IP アドレス** : このフィールドには、この ClassCat Cute サーバを使った電子メールのリレーを許可する IP アドレス、ホスト名、ドメインネームの一覧を指定します。

ユーザが使用するクライアントマシンの IP アドレス、ホスト名、またはドメインネームをこのフィールドに入力しておかないと、そのユーザはこのサーバから電子メールを送信できませんのでご注意ください。IP アドレスのほかに、ネットワーク指定もできます。例えば、192.168.0.0 というアドレスを指定すると、255.255.0.0 というサブネットマスクを持つ 192.168.1.1 というネットワークからのリレーを許可できます。

ご注意 : co.jp、com、edu、net といったトップレベルのドメインアドレスを指定することも可能ですが、これはお勧めできません。そのようなリレーを許可すると、com、edu、net などを持つあらゆるホストが、ClassCat Cute サーバを通じて電子メールをリレーできるようになるからです。このようにリレーされたメールは SPAM メールと呼ばれます。SPAM メールの送信者は、よくそのような第三者サーバを使ってメールをリレーすることにより、発信元を隠そうとします。

その結果、SPAM メールはこの ClassCat Cute サーバから発信されたように見られ、この ClassCat Cute サーバが SPAM サイトのブラックリストに入れられる可能性があります。ブラックリストに載ると、ほかのメールサーバはこの ClassCat Cute サーバからのメールをリレーしなくなり、この ClassCat Cute サーバから送られたメールの多くが無視されるようになります。

ご参考 : ClassCat Cute サーバ自身のドメインネームは、デフォルトで電子メールのリレーを許可されています。

ClassCat Cute サーバが属しているドメインから発信される電子メールが ClassCat Cute サーバ経由で送信されるのを許可しない場合には、[これらのホスト/ドメインからの電子メールの受信を拒否する :] フィールドに、ClassCat Cute サーバのドメインネームを入力します。

これにより、電子メールのダウンロードはできますが、ClassCat Cute サーバ経由で電子メールを送信できなくなります。

このフィールドに入力するエントリは、クライアントが送信している電子メールに対するパターンマッチの一部として利用されます。その結果、便利なショートカットを利用できます。同じネットワークブロック内にホストが複数ある場合などには、ショートカットとしてネットワークブロックの番号を入力できます。

例えば、「電子メールのリレーを許可するホスト/ドメイン/IP アドレス」フィールドで、192.168.1.0 などのネットワークを指定すると、192.168.1.0 ~ 192.168.1.254 までの IP アドレスがすべて許可されます。

また、最後に mydomain.com が付くホストからの接続を許可する場合には、テキスト領域に mydomain.com というストリングを入力します。

ご参考 : テキストボックスにドメインネームまたはその一部を入力する場合には、クライアント上で逆引き DNS が機能している必要があります。

- **これらのホスト/ドメインからの電子メールの受信を拒否する** : このフィールドには、特定の電子メールアドレスやドメインからの電子メールの受信を拒否したい場合に、そのアドレスまたはドメインを入力します。ここで指定するアドレスやドメインから送信されるメッセージに対しては、エラーメッセージが返信されます。
- **これらのユーザからの電子メールの受信を拒否する** : このフィールドには、特定ユーザの電子メールアドレスからの電子メールの受信を拒否したい場合に、その電子メールアドレスを入力します。ここで指定するアドレスから送信されてくるメッセージに対しては、エラーメッセージが返信されます。

2. [電子メールサーバの設定] テーブルで、[保存] ボタンをクリックします。

DNS

ドメインネームシステム (DNS) は、インターネットにとって不可欠です。ClassCat Cute サーバ上で DNS を正しく設定することは非常に重要です。

SNMP

SNMP エージェントを有効にすると、管理者は SNMP ソフトウェアを使って、CPU 利用率やネットワークトラフィックなどのサーバ情報をリモートで監視できます。

SNMP エージェントに対して、読み出し専用アクセス権と読み書きアクセス権を持つ SNMP (Simple Network Management Protocol) コミュニティを指定します。

デフォルトの読み出し専用コミュニティは「public」です。

デフォルトの読み書き可能コミュニティは「private」です。

ご参考 : 読み書き可能な SNMP コミュニティのデフォルトストリングは、別のストリングに変更するようお勧めします。

SNMP コミュニティを指定するには、次の操作を行います。

1. [サーバの管理] > [ネットワークサービス] > [SNMP] をクリックします。[SNMP の設定] テーブルが表示されます。

図 : SNMP の設定テーブル

SNMP の設定	
SNMP サービスを有効にする	<input type="checkbox"/>
読み出し専用 SNMP コミュニティ (省略可)	<input type="text" value="public"/>
読み書き可能 SNMP コミュニティ (省略可)	<input type="text" value="private"/>

保存

2. 次の設定情報を入力します。

- **SNMP サービスを有効にする** : このボックスをチェックすると、SNMP (Simple Network Management Protocol) サービスが有効になります。
- **読み出し専用 SNMP コミュニティ** : この ClassCat Cute サーバが所属している読み出し専用 SNMP コミュニティを指定します。読み出し専用 SNMP コミュニティの名前には、半角の英数字、ハイフン (-)、アンダースコア (_) のみが使えます。
- **読み書き可能 SNMP コミュニティ** : この ClassCat Cute サーバが所属している読み書き可能 SNMP コミュニティを指定します。読み書き可能 SNMP コミュニティの名前には、半角の英数字、ハイフン (-)、アンダースコア (_) のみが使えます。

3. [保存] ボタンをクリックします。

シェル

[シェル] メニューでは、シェルアクセスを許可されているユーザがこの ClassCat Cute サーバに接続するときに使う Telnet や SSH などのサービスを設定できます。

シェルの設定は、次の手順で行います。

1. [サーバの管理] > [ネットワークサービス] > [シェル] を選びます。[シェル] テーブルが表示されます。

図 : シェルテーブル

シェル	
Telnet サーバを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/> 有効にする 最大接続数 <input type="text" value="20"/> (1 - 1,024)
SSH サーバを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>

保存

2. 次の設定情報を入力します。

- **Telnet サーバを有効にする** : Telnet を有効にすると、シェルアクセスを許可されているユーザは、Telnet クライアントソフトを使ってこのサーバに接続できるようになります。

1分あたりに許可する接続の最大数を指定します。接続数がこの上限に達すると、新規の接続リクエストは拒否されます。

- **SSH サーバを有効にする** : SSH サーバを有効にすると、シェルアクセスを許可されているユーザは、SSH クライアントソフトウェアを使ってこのサーバに接続できるようになります。SSH を使った接続は、一般に Telnet を使った接続よりセキュアだと考えられています。それは、SSH では、クライアントとサーバ間で送信されるパスワードなどのデータがすべて暗号化されるためです。

システムの設定

[システムの設定] 画面では、ClassCat Cute サーバのネットワーク、時刻などを設定できます。次のサブメニューがあります。

- TCP/IP
- IP アドレス割当
- 時刻
- 情報

TCP/IP

TCP/IP の設定は、次の手順で行います。

1. [サーバの管理] > [システムの設定] > [TCP/IP] を選びます。[TCP/IP 設定] テーブルが表示されます。
2. [基本の設定] タブをクリックして、次の項目を設定します。
 - **ホスト名** : この ClassCat Cute サーバのホスト名を入力します。
ホスト名とドメインネームの組合せにより、このサーバを一意に識別できる名前を付けてください。半角の英小文字、数字、ハイフン、ピリオドだけが使用できます (指定例 : www)。
 - **ドメインネーム** : この ClassCat Cute サーバのドメインネームを入力します。ホスト名とドメインネームの組合せにより、このサーバを一意に識別できる名前を付けてください。半角の英小文字、数字、ハイフン、ピリオドだけが使用できます (指定例 : sun.com)。

図 : TCP/IP 設定テーブル

● スタティックルートを設定

TCP/IP 設定	
基本設定	
インターフェイスエイリアス	
ホスト名とドメインネーム	<input type="text"/> <input type="text"/> ホスト名 ドメインネーム
DNS サーバ (省略可)	<input type="text"/>
サーバゲートウェイ (省略可)	<input type="text"/>
プライマリ インターフェイス	
IP アドレス	<input type="text"/>
サブネットマスク	<input type="text"/>
MAC アドレス	00:02:55:B7:94:69
セカンダリ インターフェイス	
IP アドレス (省略可)	<input type="text"/>
サブネットマスク (省略可)	<input type="text"/>
MAC アドレス	00:02:55:B7:94:6A

● 保存

- **DNS サーバ** : ドメインネームサーバの IP アドレスを入力します。ドメインネームサーバは、テキスト文字列で表記されるホスト名 + ドメインネームと、数字で表記される IP アドレスとの関連 (正引き、逆引き) 情報を提供します。します。0 ~ 255 の4組の数値を、ピリオドで区切って入力してください (指定例 : 192.168.1.1)。このフィールドを空欄のまま残すと、このコンピュータはホスト名やドメインネームを使って他のコンピュータを特定できなくなるため、ネットワーク上の問題が生じます。

ご参考 : このフィールドには DNS サーバの IP アドレスを必ず入力してください。IP アドレスを入力しないと、SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) は機能しません。SMTP は電子メールメッセージの転送に使われます。

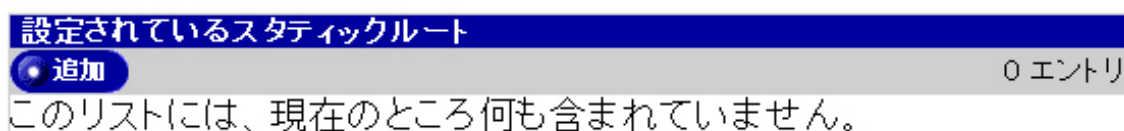
- **サーバゲートウェイ (省略可)** : このサーバのローカルネットワークゲートウェイの IP アドレスを入力します。これは、プライマリおよびセカンダリの両方のインターフェイスの

ゲートウェイです。ネットワークゲートウェイにより、ローカルネットワーク外にサーバを接続できるようになります。0 ~ 255 の4組の数値を、ピリオドで区切って入力してください (指定例 : 192.168.1.1)。

- **IP アドレス** (プライマリインターフェイス) : プライマリインターフェイスの IP アドレスを入力します。0 ~ 255 の4組の数値を、ピリオドで区切って入力してください (指定例 : 192.168.1.1)。
- **サブネットマスク** (プライマリインターフェイス) : プライマリインターフェイスのネットワークマスクを入力します。0 ~ 255 の4組の数値を、ピリオドで区切って入力してください (指定例 : 255.255.255.0)。
- **MAC アドレス** (プライマリインターフェイス) : MAC (Media Access Control) アドレスは、ネットワークインターフェイスカードのハードウェアアドレスで、各ハードウェアをネットワーク上で一意に識別する固有のアドレスです。
- **IP アドレス** (セカンダリインターフェイス) : セカンダリインターフェイスの IP アドレスを入力します。0 ~ 255 の4組の数値を、ピリオドで区切って入力してください (指定例 : 209.43.21.5)。
- **サブネットマスク** (セカンダリインターフェイス) : セカンダリインターフェイスのネットワークマスクを入力します。0 ~ 255 の4組の数値を、ピリオドで区切って入力してください (指定例 : 255.255.255.0)。
- **MAC アドレス** (セカンダリインターフェイス) : MAC (Media Access Control) アドレスは、ネットワークインターフェイスカードのハードウェアアドレスで、各ハードウェアをネットワーク上で一意に識別する固有のアドレスです。

3. [スタティックルートを設定] ボタンをクリックします。[設定されているスタティックルート] テーブルが表示されます。LAN (ローカルエリアネットワーク) 上に複数のルータまたはゲートウェイがある場合は、トラフィックが正しく配信されるようスタティックルートを設定する必要があります。

図 : 設定されているスタティックルートテーブル



戻る

4. [追加] ボタンをクリックします。[スタティックルートの追加] テーブルが表示されます。

図：スタティックルートの追加テーブル

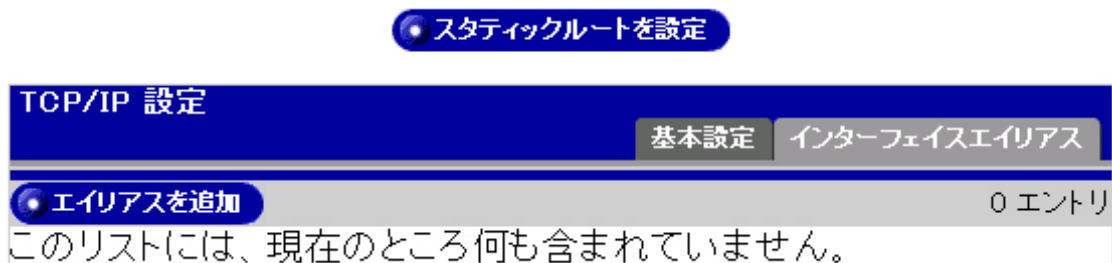
スタティックルートの追加	
ターゲットサブネットの IP アドレス	<input type="text"/>
ターゲットネットワークマスク	<input type="text"/>
ゲートウェイ	<input type="text"/>
ネットワークインターフェイス	プライマリイーサネットインターフェイス (eth0) ▼

5. [スタティックルートの追加] テーブルを設定するには、次の操作を行います。
 - **ターゲットサブネットの IP アドレス**： ルートを変更するサブネットの IP アドレスを入力します。0 ~ 255 の4組の数値を、ピリオドで区切って入力してください (指定例：192.168.1.0)。
 - **ターゲットネットワークマスク**： ルートを変更するサブネットのネットワークマスクを入力します。0 ~ 255 の4組の数値を、ピリオドで区切って入力してください (指定例：255.255.255.0)。
 - **ゲートウェイ**： ターゲットサブネットのパケットのルート変更に使われるネットワークゲートウェイの IP アドレスを入力します。0 ~ 255 の4組の数値を、ピリオドで区切って入力してください (指定例：192.168.1.1)。
 - **ネットワークインターフェイス**： ターゲットサブネット宛のパケットをルートし直す対象のネットワークインターフェイスを選択します。デバイスが指定されていない場合には、ネットワークゲートウェイの IP アドレスを基にデバイスが選択されます。選択肢は [プライマリイーサネットインターフェイス] と [セカンダリイーサネットインターフェイス] です。
6. [保存] ボタンをクリックします。

TCP/IP エイリアスを使って、同じネットワークインターフェイスに対して別のネットワークアドレスを設定することもできます。この機能を使うと、いくつかの異なるアドレス宛のパケットを1つの物理インターフェイスで受信できるため、ネットワーク設定を変更したときに、以前のインターフェイス宛のパケットを受信したい場合などに便利です。また、単一のネットワークインターフェイスに複数のアドレスを割り当てたい場合にも使えます。

1. メイン画面へ戻って、[インターフェイスエイリアス] タブをクリックします。

図 : インターフェイスエイリアスタブ



2. [追加] ボタンをクリックすると、[エイリアスを追加] テーブルが表示されます。

図 : エイリアスを追加テーブル

エイリアスを追加	
インターフェイス	プライマリインターフェイス (eth0)
IP アドレス	<input type="text"/>
ネットマスク	<input type="text"/>

保存 キャンセル

3. 次の設定情報を入力します。

- **インターフェイス** : [TCP/IP] > [基本設定] 画面で複数のインターフェイスが設定されているかどうかに応じて、[インターフェイス] フィールドは変わります。プライマリおよびセカンダリインターフェイスが設定されている場合には、[エイリアスを追加] 画面でどちらかのインターフェイスを選択できます。
- **IP アドレス** : このエイリアスが参照する IP アドレスを入力します。
- **ネットマスク** : このエイリアスのネットマスクを入力します。

IP アドレス割当

IP アドレス割当により、サーバの許容 IP アドレスを指定できます。これは、マシン上の各サイトに IP アドレスを割り当てる際に便利な機能で、誤った IP アドレスの割当、コンフリクトや誤用も

防止できます。1台のサーバでサポートするサイトの数が大きくなると、この機能の重要さと便利さも増します。

[IP アドレス割当] メニューを使うと、サーバのイーサネットポートに許容 IP アドレス範囲を指定できます。仮想サイトに IP アドレスを割り当てる際には、この範囲内の値を指定する必要があります。IP アドレス割当を設定するには、次の操作を行います。

1. [サーバの管理] > [システムの設定] > [IP アドレス割当] を選びます。[IP アドレス割当] テーブルが表示されます。

図 : IP アドレス割当テーブル

IP アドレス割当	
有効にする	<input type="checkbox"/>
保存	
許容範囲	
追加	0 エントリ
このリストには、現在のところ何も含まれていません。	

2. [有効にする] チェックボックスがチェックされていないことを確認します。許容 IP アドレス範囲を入力する前にこのボックスをチェックすると、エラーメッセージが表示されます。
3. アドレス範囲を追加するには、[許容範囲] テーブルの [追加] ボタンをクリックします。図のテーブルが表示されます。

図 : 許容範囲テーブル

許容範囲		1 エントリ
開始	終了	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	保存  キャンセル

4. このテーブルに IP アドレス範囲の下限と上限を入力し、[保存] ボタンをクリックして変更を保存します。

5. [有効にする] チェックボックスをチェックして IP アドレス割当を有効にします。[許容範囲] テーブルで指定した範囲内の IP アドレスしか、仮想サイトに使用できません。
6. このテーブルのエントリを削除するには、茶色のゴミ箱アイコンをクリックします。

時刻

このメニューは、サーバの時刻を設定するときに使います。時刻の設定は、次の手順で行います。

1. [サーバの管理] > [システムの設定] > [時刻] を選びます。[時刻の設定] テーブルが表示されます。

図：時刻の設定テーブル

時刻の設定	
日付と時刻	2004 年 1 月 01 日 午前 12 時 00 分
時間帯	アジア 日本 日本標準時
NTP サーバのアドレス (省略可)	<input type="text"/>

保存

2. 時刻を設定するには、次の操作を行います。
 - **日付と時刻**：現在の日付と時刻を設定します。
 - **時間帯**：アジア/日本に設定されています。
 - **NTP サーバのアドレス (省略可)**：ここに NTP (Network Time Protocol) サーバのネットワークアドレスまたはドメインネームを指定すると、毎日システムの時刻が同期化されます。その他にも、一般に公開されている NTP サーバの一覧が <http://www.eecis.udel.edu/~mills/ntp/servers.html> に掲載されていますのでご利用ください。

ご参考：手動で時刻を入力した場合には、[保存] ボタンをクリックするとすぐに ClassCat Cute サーバの時刻がアップデートされます。NTP サーバアドレスを入力し、手動で日付と時刻を設定しなかった場合には、[保存] ボタンをクリックすると、次にスケジュールされている NTP サーバのアップデート時に ClassCat Cute サーバの日付と時刻の設定が NTP サーバに同期化されます。

情報

このメニューをクリックすると、MAC アドレスなど、ClassCat Cute サーバに関するシステム情報が表示されます。また、(株)クラスキャットのホームページへのリンクも表示されます。

利用状況

[利用状況] 画面では、サーバとネットワークサービスの利用状況の統計を表示できます。次のサブメニューがあります。

- ネットワーク
- ウェブ
- FTP
- 電子メール
- ディスク

ネットワーク

ネットワークの利用状況表示の設定は、次の手順で行います。

1. [サーバの管理] > [利用状況] > [ネットワーク] を選びます。[統計オプションの設定] テーブルが表示されます。

図：統計オプションの設定テーブル

統計オプションの設定	
開始日時	2004 年 6 月 03 日
終了日時	2004 年 6 月 03 日

- この統計報告に含みたい期間の開始日時と終了日時を指定します。
- [統計を更新する] ボタンをクリックします。
[ネットワーク利用状況] テーブルが表示されます。

図 : ネットワーク利用状況テーブル

ネットワーク 利用状況	
統計の生成日時	2004/6/3 21:58
開始日時	2004/5/1 00:01
終了日時	2004/6/3 21:58
転送されたバイト数	198.98 MB

- ドロップダウンボックスを使って、希望のデータを表示します。
- [設定を変更する] をクリックすると、図 (統計オプションの設定テーブル) のテーブルに戻ります。
- [ログのダウンロード] をクリックすると、ネットワークの利用状況ログファイルをダウンロードできます。

ウェブ

ウェブの利用状況表示の設定は、次の手順で行います。

1. [サーバの管理] > [利用状況] > [ウェブ] を選びます。[統計オプションの設定] テーブルが表示されます。

図 : 統計オプションの設定テーブル

統計オプションの設定	
開始日時	2004 年 4 月 01 日
終了日時	2004 年 4 月 10 日

[統計を更新する](#) [戻る](#)

2. この統計報告に含みたい期間の開始日時と終了日時を指定します。
3. [統計を更新する] ボタンをクリックすると、ウェブの利用状況が表示されます。

FTP

FTP の利用状況表示の設定は、次の手順で行います。

1. [サーバの管理] > [利用状況] > [FTP] を選びます。[統計オプションの設定] テーブルが表示されます。

図 : 統計オプションの設定テーブル

統計オプションの設定	
開始日時	2004 年 4 月 01 日
終了日時	2004 年 4 月 10 日

[統計を更新する](#) [戻る](#)

2. この統計報告に含みたい期間の開始日時と終了日時を指定します。
3. [統計を更新する] ボタンをクリックすると、FTP の利用状況が表示されます。

電子メール

電子メールの利用状況表示の設定は、次の手順で行います。

1. [サーバの管理] > [利用状況] > [電子メール] を選びます。[統計オプションの設定] テーブルが表示されます。

図 : 統計オプションの設定テーブル

統計オプションの設定						
開始日時	2004	年	4	月	01	日
終了日時	2004	年	4	月	10	日

[統計を更新する](#) [戻る](#)

2. この統計報告に含みたい期間の開始日時と終了日時を指定します。
3. [統計を更新する] ボタンをクリックすると、電子メールの利用状況が表示されます。

ディスク

仮想サイト上のディスクの利用状況を表示するには、次の操作を行います。

1. [サーバの管理] > [利用状況] > [ディスク] を選びます。[ディスクの使用状況] テーブルが表示されます。

図： ディスクの利用状況画面

ディスクの使用状況				
パーティション別				
パーティション▼	使用容量 (MB)▼	割当容量 (MB)▼	使用率	
/	1985.89	12670.29		16%
/boot	8.92	197.48		5%
/home	76.89	16128.99		0%
/var	76.02	8060.81		1%

2. [パーティション別] タブをクリックします。
[ディスクの使用状況] テーブルに、パーティション別のディスクの使用状況が表示されます。
3. [サイト別] タブをクリックします。
[ディスクの使用状況] テーブルに、サイトのホスト名別のディスクの使用状況が表示されます。
4. [ユーザ別] タブをクリックします。
[ディスクの使用状況] テーブルに、ユーザ別のディスクの使用状況が表示されます。
5. [警告メールの送信設定] タブをクリックします。
[ディスクの使用状況] テーブルでは、ユーザまたは仮想サイトが割当ディスク容量を超過した場合に送信する警告メールの種類を設定できます。

図： 警告メールの送信設定タブ画面

ディスクの使用状況	
警告メールの送信設定	
ユーザが割当ディスク容量を超過したとき	<input type="checkbox"/> 管理者に警告メールを送信する <input checked="" type="checkbox"/> ユーザに警告メールを送信する
サイトが割当ディスク容量を超過したとき	<input checked="" type="checkbox"/> 管理者に警告メールを送信する

保存

アクティブモニタ

ClassCat Cute Server Manager にはアクティブモニタソフトウェアが標準装備されています。アクティブモニタは ClassCat Cute サーバ上で動作する ClassCat Cute Server Manager のユーティリティで、主要なシステムおよびサービス情報を常時監視し、15分間隔で更新します。ここでは、アクティブモニタの使用方法について説明します。

アクティブモニタアイコン



ユーザインターフェイスの右上にあるアクティブモニタアイコンをクリックすると、システムとサービスの動作状況が表示されます。アクティブモニタが監視しているコンポーネントに深刻な問題が発生すると、このアイコンが赤で表示されます。

[アクティブモニタ] 画面では、システムコンポーネントの正常な動作を監視できます。次のサブメニューがあります。

- **動作状況メニューの選択肢** : [概要] テーブルが表示されます (システムの動作状況、サービスの動作状況)。
- **設定メニューの選択肢** : [アクティブモニタの設定] テーブルが表示されます。

動作状況メニューの選択肢

このメニュー項目からは、[情報の更新] ボタンと3つのテーブルを表示できます。左側の丸いボタンの色が対応する項目の状況を示します。

1. 特定のシステムコンポーネントまたはサービスの詳細な動作状況を表示するには、表示したい項目名の左側にある丸いボタンをクリックするか、[詳細] 欄の虫めがねアイコンをクリックします。

左側の丸いボタンの色 (緑、黄色、赤、灰色) が対応する項目の状況を示します。

- **灰色** : 監視が無効にされているか、情報がまだ収集されていません。
- **緑** : 正常に動作しています。
- **黄色** : ディスクの空き容量が少なくなっているなど、問題が発生しています。管理者が調査する必要があります。
- **赤** : 深刻な問題が発生しています。管理者が直ちに対応する必要があります。

ご参考：黄色や赤のインジケータが点灯する問題が発生した場合、その問題を修正しても、アクティブモニタが次に手動または自動的に動作するまで（15分毎）インジケータの色は変わりません。





2. [情報の更新] ボタンをクリックして、サーバの現在の状況を表示します。

ご参考：このボタンをクリックすると、システムとサービスの動作状況に関する情報をアップデートする処理がすぐに始まります。

動作状況の確認には数分かかりますが、全てバックグラウンドで処理されます。

3. **システムの動作状況 – 概要テーブル**：このテーブルには、サーバのハードウェアと環境の状況が表示されます。
4. **サービスの動作状況 – 概要テーブル**：このテーブルには、様々なサーバ（DNS、FTP、電子メール、Telnet、ウェブ、SNMP）の動作状況、サーバデスクトップの動作状況が表示されます。

図：システムの動作状況 – 概要テーブル

システムの動作状況 – 概要		4 エントリ
▼	コンポーネント名 ▼	詳細
●	CPU の使用状況	
●	ディスクの使用状況	
●	ネットワークの状態	
●	メモリの使用状況	

図：サービスの動作状況 - 概要テーブル

サービスの動作状況 - 概要		7 エントリ
▼	コンポーネント名 ▼	詳細
●	DNS サーバ	
●	FTP サーバ	
●	SNMP サーバ	
●	Telnet サーバ	
●	ウェブサーバ	
●	サーバデスクトップ	
●	電子メールサーバ	

設定メニューの選択肢

このメニューからは、アクティブモニタの設定が行えます。アクティブモニタの設定は、次の手順で行います。

1. [サーバの管理] > [アクティブモニタ] > [設定] を選択します。[アクティブモニタの設定] テーブルが表示されます。

図 : アクティブモニタの設定テーブル

アクティブモニタの設定					
監視する	<input checked="" type="checkbox"/>				
警告メールの送信先 (省略可)	admin				
監視対象のコンポーネント (省略可)	<table border="1"><thead><tr><th>監視されているコンポーネント</th><th>監視されていないコンポーネント</th></tr></thead><tbody><tr><td>CPU の使用状況 DNS サーバ FTP サーバ SNMP サーバ Telnet サーバ ウェブサーバ</td><td>空欄</td></tr></tbody></table>	監視されているコンポーネント	監視されていないコンポーネント	CPU の使用状況 DNS サーバ FTP サーバ SNMP サーバ Telnet サーバ ウェブサーバ	空欄
監視されているコンポーネント	監視されていないコンポーネント				
CPU の使用状況 DNS サーバ FTP サーバ SNMP サーバ Telnet サーバ ウェブサーバ	空欄				

2. [アクティブモニタの設定] フィールドを設定するには、次の操作を行います。
- **監視する** : このボックスをチェックすると、アクティブモニタが有効になります。これにより各システムコンポーネントが正しく動作しているかどうかを容易に確認できます。監視するシステムコンポーネントは、下のフィールドに指定できます。
 - **警告メールの送信先 (省略可)** : アクティブモニタが送信する警告メッセージの送信先を入力します。複数のアドレスを入力する場合には、Return キーを使って1行に1つずつ入力してください。
 - **監視対象のコンポーネント (省略可)** : アクティブモニタが定期的に動作状況を確認するシステムコンポーネントを指定できます。左欄には、現在監視されているシステムコンポーネントの一覧が表示されます。右欄には、監視されていないシステムコンポーネントが表示されます。監視する必要のないシステムコンポーネントがあれば、右矢印を使ってそのコンポーネントを右欄へ移動してください。

サイトの管理

はじめに

ClassCat Cute® Server Manager は、複数の仮想サイトをホストできるようデザインされています。仮想サイトとは、www.efgh.com や www.xyz.com など、インターネット上の独立した場所を示します。各仮想サイトにはそれぞれのユーザを設定でき、ユーザは電子メールの送受信、ウェブページのパブリッシュ、FTP を使ったファイルのアップロードやダウンロードを行えます。また匿名 FTP アクセスを許可することもできます。

ご参考：仮想サイトは名前ベースでも、IP ベースでも構いません。ただし、1 つの IP アドレスを複数の名前ベース仮想サイトが共用している場合、匿名 FTP を使用できる仮想サイトは1つだけです。

ClassCat Cute サーバでは、数多くの IP ベース仮想サイトをホストできます。設定できる仮想サイトの数は、ClassCat Cute サーバのハードディスク上の空き容量、各仮想サイトに割り当てられたハードディスク容量、各サイトのトラフィック量、各サイトで使われるダイナミックコンテンツの量と複雑度に応じて決まります（例：CGI、PHP など）。各サイトの動的ウェブコンテンツは、静的コンテンツに比べ、サーバ上のロードをはるかに重くします。

管理者の権限

このセクションでは、ClassCat Cute サーバでサーバ管理者とサイト管理者が行える機能について説明します。

サイト管理者は、次の機能を実行できます。

- ユーザの設定と管理
- ユーザのインポートとエクスポート
- メーリングリストの作成と管理
- 使用状況レポートの作成

サーバの管理者は、サイトの管理者の全機能に加えて次のような機能も実行できます。

- ホスト名または IP アドレスによる仮想サイトの検索

- 仮想サイトテンプレートの編集
- 仮想サイトの追加

サイト管理者は、第6章「個人プロフィール」で説明するサイトユーザが利用できる機能にすべてアクセスできます。

ご参考：仮想サイトをすべて削除し、ClassCat Cute サーバを DNS サーバや電子メールサーバとして使うこともできます。

各サイトのサイト管理者はサーバ管理者が指定します。サイト管理者は、(サーバ管理者も兼任しているのではない限り) 指定された仮想サイトしか管理できません。

サイト管理者が他のサイトユーザを管理者に指定することもできます。

ご参考：仮想サイトのサイト管理者がサーバ管理者も兼任する場合には、admin としてログインすると、すべてのサーバ管理業務にアクセスできます。

サイト管理者は、ウェブブラウザから仮想サイトの管理を行えます。特定サイトの [サイトの管理 (<サイト名>)] 画面を開くには、ブラウザの URL フィールドに <http://<<サイト名>/login/> と入力します。サーバデスクトップと呼ばれるブラウザベースのユーザインターフェイス (UI) に、ユーザ名とパスワードを求めるメッセージが表示されます。ユーザ、サイト管理者、サーバ管理者のいずれかでログインします。サイト管理者としてログインした場合には、[サイトの管理 (<サイト名>)] 画面が表示されます。

ご参考：[サイトの管理] 画面にアクセスするには、ウェブブラウザに正しいドメイン名を入力する必要があります。[サイトの管理] 画面は、入力されたサイト名が不完全またはエイリアス名ではアクセスできません。

名前ベースの仮想サイトでは、サーバを正しく指定するよう DNS 情報を設定しない限り、URL <http://<サイト名>/siteadmin/> を入力しても [サイトの管理] 画面にはアクセスできません。但し、サーバ管理者は、[サーバの管理] 画面からいつでも各仮想サイトの [サイトの管理] 画面にアクセスできます。

サーバの管理画面 (サーバ管理者)

サーバ管理者としてログインして [サイトの管理] 画面へ行くと、[仮想サイトのリスト] メニュー項目がハイライトされた [サイトの管理] 画面が表示されます。

図 : サーバ管理者のサイトの管理画面



図が示すように、サーバ管理者は仮想サイトの検索、仮想サイトのテンプレートの編集、仮想サイトの追加を行えます。これらの操作を行えるのはサーバ管理者だけです。

[サイトの管理] のメイン画面には、サーバ管理者が利用できる次のような3つの領域があります。

- 仮想サイトを検索テーブル
- 仮想サイトのリストテーブル
- 仮想サイトテンプレートを編集ボタン

仮想サイトの検索

[仮想サイトを検索] テーブルでは、テキストフィールドに入力した属性に一致する仮想サイトを検索できます。これらの機能は、ClassCat Cute サーバに非常に多くの仮想サイトが設定されている場合に、一定の条件を満たす仮想サイトだけを表示したいときなどに便利です。

以下の条件を使って、仮想サイトのリストを検索できます。

- ホスト名 (ホスト名が指定した文字列に一致する、または特定の文字列を含む、あるいは含まないサイト)
- IP アドレス (IP アドレスが特定のサブネットに一致する、または特定のサブネットを含む、あるいは含まないサイト)
- サイトで有効に設定されている特定のサービス

図 : 仮想サイトを検索テーブル

仮想サイトを検索	
検索	サイト名 <input type="text"/> <input type="button" value="検索"/> <input type="button" value="詳細検索"/>

1. このテーブルでは以下の項目を設定します。
 - **検索** : [検索] ドロップダウンボックスから、検索するサイトのプロパティ (ホスト名または IP アドレス) を選びます。ドロップダウンボックスの右のフィールドにテキストを入力し、[検索] ボタンをクリックすると、プロパティに指定したホスト名または IP アドレスに入力したテキストを含むサイトが表示されます。
 - **詳細検索** : 詳細検索では、サイトの属性に関するその他の基準を使って検索できます。[詳細検索] をクリックすると、図のテーブルが表示されます。検索条件に使いたい検索基準を指定します。
2. [検索] ボタンをクリックすると、検索が始まります。



図：詳細検索テーブル

仮想サイトを検索	
検索オプション	
検索基準	<input type="text" value="サイト名"/> に、次の文字を含むサイトを表示 <input type="text"/>
サイトの利用	<input type="checkbox"/> シェルアクセス <input type="checkbox"/> 利用状況 <input type="checkbox"/> CGI (Common Gateway Interface) <input type="checkbox"/> 匿名 FTP <input type="checkbox"/> PHP スクリプト <input type="checkbox"/> SSI (Server-Side Includes)
サスペンド	<input type="checkbox"/>
表示オプション	
1 ページに表示するサイト数	<input type="text" value="25"/>

仮想サイトのリスト

[仮想サイトのリスト] テーブルには既存の仮想サイトが表示され、ここから仮想サイトを追加、削除することもできます。

図：仮想サイトのリストテーブル

仮想サイトのリスト			
<input type="button" value="追加"/>			1 エントリ
サイト名 ▼	IP アドレス ▼	サスペンド ▼	
target.sub.classcat.com	192.168.0.200		 

このテーブルの設定は以下の通りです。

- **ホスト名** : ホスト名には、サイトの正しい名前である正式なドメインネーム (ホスト名 + ドメインネーム) を指定します。
- **IP アドレス** : サイトの IP アドレスを指定します。
- **サスペンド** : サイトがサスペンドされているかどうかを示します。サイトがサスペンドされている場合には、サイトのユーザは、そのサイトに関連するウェブサイトや FTP サイトにアクセスできません。

[仮想サイトのリスト] の項目を変更するには緑色の鉛筆アイコンは「仮想サイトの管理」をクリックし、リストから削除するには茶色のゴミ箱アイコンをクリックします。

[追加] ボタンをクリックして、[仮想サイトのリスト] に新規の項目を追加します。図に示す画面が表示されます。

このテーブルに必要な事項を入力すると、新規の仮想サイトが作成されます。

ご参考 : [自動 DNS 設定] を使うと、このサイトの DNS レコードを管理できます。ウェブサーバと電子メールサーバの別名は、サイトのドメインネームを共有している場合のみサポートされています。このサービスでは、ドメインネームはトップレベルの登録業者には登録されません。

図 : 新規仮想サイトを追加テーブル

新規仮想サイトを追加	
IP アドレス	<input type="text"/>
ホスト名とドメインネーム	<input type="text"/> <input type="text"/> ホスト名 ドメインネーム
ウェブサーバの別名 (省略可)	<input type="text"/>
電子メールサーバの別名 (省略可)	<input type="text"/>
キャッチオール電子メールアドレス (省略可)	<input type="text"/>
最大許容ディスク容量 (MB)	<input type="text" value="500"/> (1 - 16,128)
ユーザの最大数	<input type="text" value="25"/>
自動 DNS 設定	<input checked="" type="checkbox"/>
サービスと機能	
匿名 FTP	<input type="checkbox"/> 匿名 FTP を有効にする 最大許容 アップロードディスク容量 (MB) <input type="text" value="20"/> 最大同時接続者数 <input type="text" value="10"/>
PHP スクリプトを有効にする	<input type="checkbox"/>
CGI (Common Gateway Interface) を有効にする	<input type="checkbox"/>
SSI (Server-Side Includes) を有効にする	<input type="checkbox"/>
シェルアクセスを有効にする	<input type="checkbox"/>

仮想サイトテンプレートの編集

仮想サイトのデフォルトを設定しておくさまざまな利点があります。例えば、複数のサイトが同じ IP アドレスを共有する場合、デフォルトの IP アドレスを設定しておく、新しく追加されるすべての仮想サイトでその IP アドレスが自動的に表示されます。また、複数のサイトが同じドメインネームを共有することはよくあるため、デフォルトのドメインネームを設定しておく便利です。

他のオプションについても同様に、典型的な仮想サイトのニーズを判断してデフォルト値を設定してください。

サイト用デフォルト値の設定とサイトの設定が行えるのは、サーバ管理者だけです。サーバ管理者がシェルアカウントのサービスを有効にしてはじめて、サイト管理者は各ユーザのシェルアクセスを有効または無効に指定できます。

仮想サイトのテンプレートを編集するには、次の操作を行います。

1. [仮想サイトのテンプレートを編集] ボタンをクリックして、仮想サイトを追加したときに自動的に入力される設定を編集します。

このボタンをクリックすると、図のテーブルが表示されます。

図：仮想サイトのテンプレートテーブル

仮想サイトのテンプレート				
	基本設定	サービスと機能	ウェブ	匿名 FTP
IP アドレス	<input type="text"/>			
ドメインネーム	<input type="text"/>			
最大許容ディスク容量 (MB)	<input type="text" value="500"/>			
ユーザの最大数	<input type="text" value="25"/>			
キャッチオール電子メールアドレス	<input type="text"/>			
自動 DNS 設定	<input checked="" type="checkbox"/>			

2. [基本設定] タブを使うと、新規仮想サイトのネットワーク、ユーザとディスクの上限、電子メールのデフォルト設定を設定できます。

- **IP アドレス** : サイトを追加したときに入力されるデフォルトの IP アドレスを指定します。ClassCat Cute サーバを使うには、少なくとも1つの IP アドレス、または範囲の割り当てられた IP アドレスが必要です。

ご参考 : ClassCat Cute サーバは名前ベースの仮想サイトをサポートしているため、複数のサイトが同じ IP アドレスを共有できます。例えば、管理者は、同じ IP アドレス (例 : 192.168.25.77) を使って、異なるドメイン名を持つ複数の仮想サイト (例 : www.efgh.com と www.xyz.com) を作成できます。

- **ドメイン名** : 新規の仮想サイトが属するデフォルトのドメイン名を指定します。各仮想サイトにもドメイン名 (efgh.com や xyz.com など) が必要です。

管理者は JPNIC または InterNIC にドメイン名を登録する必要があります。その他にもドメイン名登録を許認可されている団体の一覧が、ICANN (Internet Corporation for Assigned Names and Numbers) のウェブサイト <http://www.icann.org> に掲載されていますのでご参照ください。

ご参考 : ClassCat Cute サーバを DNS サーバとして使い、ホスト名を割り当てることもできます。

- **最大許容ディスク容量 (MB)** : このサイトがファイルの保存に利用できる ClassCat Cute サーバ上の最大許容ディスク容量をメガバイト (MB) を単位として正の整数で指定します。
- **ユーザの最大数** : サイトで作成できるユーザアカウントの最大数を指定します。
- **キャッチオール電子メールアドレス** : 存在しないユーザやメーリングリスト宛のメッセージを受信する電子メールアドレスを指定します。このフィールドを空欄のままにすると、存在しないユーザやメーリングリスト宛の電子メールは受信されません。指定したアドレスが存在しない場合には、存在しないユーザやメーリングリスト宛の電子メールは、アドレスを指定しなかった場合と同様に拒絶されます。
- **自動 DNS 設定** : 自動 DNS 設定を使うと、このサイトの DNS レコードを管理でき

ます。ウェブサーバと電子メールサーバの別名は、サイトのドメインネームを共有している場合のみサポートされています。このサービスでは、ドメインネームはトップレベルの登録業者には登録されません。この仮想サイトの DNS レコードは自動的に作成できます。この機能が有効になっていると、ClassCat Cute サーバがこの仮想サイトのプライマリ DNS サーバとなります。この機能はデフォルトではオフに設定されています。このサイトと同じドメインネームを持つウェブサーバや電子メールサーバの別名がある場合には、これらの別名の DNS 情報も作成されます。

ご参考： この機能により、新規サイト名をトップレベルのドメインネーム登録業者に登録することはできません。管理者は JPNIC または InterNIC にドメインネームを登録する必要があります。

その他にもドメインネーム登録を許認可されている団体の一覧が、ICANN (Internet Corporation for Assigned Names and Numbers) のウェブサイト <http://www.icann.org> に掲載されていますのでご参照ください。

3. [サービスと機能] タブを使うと、各種サービスのオン/オフを切り替えられます。

- **シェルアクセスを有効にする**： シェルアクセスを有効にすると、Telnet や SSH などのサービスを使ってサーバに接続できるユーザを作成できます。

ご参考： サイトでこれらサービスが有効になっている場合には、ユーザ毎に各サービスを有効または無効にできます。

図： 仮想サイトのテンプレート - サービスと機能タブ



仮想サイトのテンプレート			
基本設定	サービスと機能	ウェブ	匿名 FTP
シェルアクセスを有効にする	<input type="checkbox"/>		

● 保存 ● キャンセル

4. [ウェブ] タブを使うと、スクリプト言語などのウェブオプションを設定できます。

次の項目については、「ウェブ」のセクションで詳しく説明します。

- **PHP スクリプトを有効にする** : PHP スクリプトの使用を有効にできます。
- **CGI (Common Gateway Interface) を有効にする** : CGI アプリケーションの使用を有効にできます。
- **SSI (Server Side Includes) を有効にする** : SSI の使用を有効にできます。

図 : 仮想サイトのテンプレート : ウェブタブ

仮想サイトのテンプレート	
基本設定	
PHP スクリプトを有効にする	<input type="checkbox"/>
CGI (Common Gateway Interface) を有効にする	<input type="checkbox"/>
SSI (Server-Side Includes) を有効にする	<input type="checkbox"/>

5. [匿名 FTP] タブを使うと、匿名 FTP の設定を変更できます。匿名 FTP については、「匿名 FTP」のセクションで詳しく説明します。

- [匿名 FTP を有効にする] チェックボックスをチェックすると、サイトの匿名 FTP が有効になります。
- **最大許容アップロードディスク容量 (MB)** : 匿名 FTP にアップロードされるファイルの保存に使う最大ディスク容量を指定します。
- **最大同時接続者数** : FTP サーバへ同時にアクセスを許可するユーザの最大数を指定します。

図 : 仮想サイトのテンプレート - 匿名 FTP タブ

仮想サイトのテンプレート	
匿名 FTP	
匿名 FTP	<input type="checkbox"/> 匿名 FTP を有効にする 最大許容 アップロードディスク容量 (MB) <input type="text" value="20"/> 最大同時接続者数 <input type="text" value="10"/>

6. [保存] ボタンをクリックします。

[追加] ボタンをクリックして新規項目を [仮想サイトのリスト] に追加するたびに、ここで指定した情報が [新規仮想サイトを追加] テーブルに表示されます。

サイトの管理画面 (サイト管理者)

サイト管理者としてログインして [サイトの管理] 画面へ行くと、[サイトの管理] 画面は図のように表示されます。サイト管理者には、サーバ管理者だけがアクセスできる画面は表示されず、それとは異なる画面が表示されます。

図： サイト管理者のサイトの管理画面



図からわかるように、サイトの管理者 (およびサーバの管理者) は、[サイトの管理] 画面の左側に表示されるすべてのメニュー項目にアクセスできます。ただし、サイト管理者は、[ユーザのリスト] メニュー (図でハイライトされている項目) でユーザの検索、ユーザのテンプレートの編集、仮想サイトの追加は行えません。これらの操作を行えるのはサーバ管理者だけです。

仮想サイトの管理

サーバ管理者が [仮想サイトのリスト] テーブルで鉛筆アイコンをクリックした場合、またはサイト管理者が [サイトの管理] 画面を表示した場合、図の画面が表示され、指定した仮想サイトを修正できます。

ご参考 : サイト管理者のサイトの管理画面には、画面上部に [サイトの管理] と [個人プロフィール] の2つのタブしか表示されません。その他のタブ ([サーバの管理]) は、サーバ管理者専用の機能です。

図 : サイトの管理画面 (サーバ管理者)



[サイトの管理] 画面の左側の管理メニューをすべて展開すると、以下のメニュー項目が表示されます。これらの項目は、管理者が行える機能とサービスです。このセクションでは次の各項目について説明します。

- ユーザの管理
 - * ユーザのリスト
 - * インポート

- * エクスポート
- メーリングリスト
- 一般設定
- サービス
 - * ウェブ
 - * 匿名 FTP (サーバ管理者のみ)
 - * 電子メール
 - * シェル
- 利用状況
 - * ウェブ
 - * FTP
 - * 電子メール
 - * ディスク
 - * 設定

ユーザの管理

[ユーザの管理] メニュー項目は、ユーザの追加、修正、削除に使用します。

[ユーザのリスト]

[ユーザのリスト] メニューを選ぶと、[ユーザの検索] と [ユーザのリスト] テーブルが表示されま
す。

図 : ユーザの検索テーブルとユーザのリストテーブル

ユーザの検索	
検索:	<input type="text" value="ユーザ名"/> <input type="button" value="検索"/>
<input type="button" value="ユーザのデフォルトを修正"/>	
ユーザのリスト - test0.sub.classcat.com	
<input type="button" value="追加"/>	0 エントリ
このリストには、現在のところ何も含まれていません。	

1. [ユーザの検索] テーブルでは以下の項目を設定します。
 - **検索** : この検索ツールを使うと、指定した基準に基づいて [検索] ドロップダウンボックスからユーザを検索できます。検索するフィールドを指定し、入力したテキストをそのフィールドに対して比較する方法を選びます。
2. 新規ユーザを追加するには、[ユーザのリスト] テーブルで [追加] ボタンをクリックします。[新規ユーザを追加] テーブルが表示されます。

図 : 新規ユーザを追加テーブル

target.sub.classcat.com に新規ユーザを追加	
氏名	<input type="text"/>
よみがな	<input type="text"/>
ユーザ名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/> <input type="password"/> (再度入力)
最大許容ディスク容量	<input type="text" value="20"/> (1 - 400)
シェルアクセスを有効にする	<input type="checkbox"/>
サイト管理者	<input type="checkbox"/>
電子メールエイリアス (省略可)	<input type="text"/>
備考 (省略可)	<input type="text"/>

3. [新規ユーザを追加] テーブルでは以下の項目を設定します。
 - **氏名** : ユーザの氏名を入力します。コロン以外の文字はすべて使えます (例 : 田辺純子)。
 - **よみがな** : ユーザの氏名をひらがなで入力します (例 : たなべじゅんこ)。この情報に基づいて、ユーザの表示順序 (よみがなの昇順または降順) が決まります。

- **ユーザ名**：ユーザの識別名です。電子メールの宛先アドレスとしても使われます。半角の英小文字、数字、ピリオド、ハイフン、アンダースコアのみを使い、12文字以内で入力してください。最初の文字には英小文字を使ってください（指定例：tanabe）。
- **パスワード**：このユーザのパスワードを入力します。パスワードには3～16文字を使用できます。少なくとも5文字以上で、大文字と小文字の両方を使い、数字や記号を含むパスワードをお勧めします。辞書にあるような一般的な語句は使用しないようにしてください。パスワード中の大文字と小文字は区別されます。
- **最大許容ディスク容量**：このユーザに割り当てるディスク容量を指定します。このユーザは、ここで指定するディスク容量をウェブページ用ファイル、電子メールメッセージなどのユーザファイルの保存に使えます。割当容量には1 MB 以上を指定してください。新規ユーザ用のデフォルト値は、[ユーザのテンプレート] で設定します。サイトレベルのアカウントでは、[最大許容ディスク容量 (MB)] を空欄にすることはできません。このフィールドには1以上の整数を入力してください。
- **サイト管理者**：サイト管理者とは、サイトの設定、ユーザの追加や削除などの業務を行えるユーザです。
- **電子メールエイリアス (省略可)**：ユーザが電子メールの受信に使用できる別名を入力します。電子メールエイリアスには、半角の英小文字、数字、ピリオド、ハイフン、アンダースコアだけが使用できます（指定例：junko.tanabe）。
- **備考 (省略可)**：このユーザに関する情報やコメントを記入できます。

4. [保存] ボタンをクリックして設定を保存します。

ユーザを追加し終わると、この新規ユーザは [ユーザのリスト] テーブルに表示されます。

図：ユーザのリストテーブル

ユーザのデフォルトを修正

ユーザのリスト - test0.sub.classcat.com				
追加				1 エントリ
氏名	ユーザ名 ▼	電子メールエイリアス	与えられている権限	操作・削除
サイト管理者	site-admin			

ユーザの設定を変更するには緑色の鉛筆アイコン、削除するにはゴミ箱アイコンをクリックしま

す。

ユーザの設定を変更するために緑色の鉛筆アイコンをクリックすると、[ユーザ設定の修正] テーブルが表示されます。

図 : ユーザ設定の修正テーブル

ユーザ設定の修正 - site-admin	
	アカウント設定 電子メール設定
氏名	<input type="text" value="サイト管理者"/>
よみがな	<input type="text" value="さいとかんりしゃ"/>
新しいパスワード (省略可)	<input type="text"/> <input type="text"/> (再度入力)
最大許容ディスク容量	<input type="text" value="20"/> (1 - 500)
シェルアクセスを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
サイト管理者	<input checked="" type="checkbox"/>
サスペンド	<input type="checkbox"/>
備考 (省略可)	<input type="text" value="テスト・サイト管理者"/>

1. [ユーザ設定の修正] テーブル ([アカウント設定] タブ) では次の項目を設定します。
 - **氏名** : ユーザの氏名を入力します。コロンの文字はすべて使えます (例 : 田辺純子)。
 - **よみがな** : ユーザの氏名をひらがなで入力します (例 : たなべじゅんこ)。この情報に基づいて、ユーザの表示順序 (よみがなの昇順または降順) が決まります。
 - **新しいパスワード** : このユーザのパスワードを入力します。パスワードには3~16文字を使用できます。少なくとも5文字以上で、大文字と小文字の両方を使い、数字や記号を含むパスワードをお勧めします。辞書にあるような一般的な語句は使用しないようにしてください。パスワード中の大文字と小文字は区別されます。
 - **最大許容ディスク容量** : このユーザに割り当てるディスク容量を指定します。このユーザは、ここで指定するディスク容量をウェブページ用ファイル、電子メールメッセージなどのユーザファイルの保存に使えます。割当容量には 1 MB 以上を指定してください。新

規ユーザ用のデフォルト値は、[ユーザのテンプレート] で設定します。サイトレベルのアカウントでは、[最大許容ディスク容量 (MB)] を空欄にすることはできません。このフィールドには 1 以上の整数を入力してください。

- **サイト管理者** : サイト管理者とは、サイトの設定、ユーザの追加や削除などの業務を行えるユーザです。
- **サスペンド** : ユーザをサスペンドすると、そのユーザは、自分のアカウントに関連する Telnet、FTP、電子メール、ファイルへのウェブアクセスなどのサービスにアクセスできなくなります。サスペンドされたアカウントへの送信された電子メールは拒絶され、送信者にはエラーメッセージが送信されます。
- **備考 (省略可)** : このユーザに関する情報やコメントを記入できます。

2. [ユーザ設定の修正] テーブル ([電子メール設定] タブ) では次の項目を設定します。

- **電子メールエイリアス (省略可)** : ユーザが電子メールの受信に使用できる別名を入力します。電子メールエイリアスには、半角の英小文字、数字、ピリオド、ハイフン、アンダースコアだけが使用できません (指定例 : junko.tanabe)。
- **電子メール転送** : 電子メール転送を有効にすると、以後受信する電子メールは指定された電子メールアドレスに自動的に転送されます。[電子メールアドレス] フィールドに、電子メールの自動転送先の電子メールアドレスを user@example.com の形式で入力してください。複数のアドレスを入力する場合には、コンマで各アドレスを区切るか、各アドレスごとに改行して入力してください。
- **コピーを保存** : このボックスをチェックすると、受信した各電子メールは指定アドレスに転送されると共に、このサーバのメールボックスにもそのコピーが保存されます。
- **不在時自動応答メッセージ** : 不在時自動応答メッセージを有効にすると、受信した電子メールに対して自動的に返信メッセージが送られます。休暇や出張などのためしばらく電子メールを読めないときや、送信者に特定の自動応答メッセージを送りたいときなどにこの機能を利用すると便利です。
- **自動応答メッセージ** : 受信した電子メールの送信者宛に自動的に送信したいメッセージを入力します。

3. [ユーザのデフォルトを修正] ボタンをクリックすると、新規ユーザの追加時に使われるデフォルト設定を変更できます。

ご参考 : サイトで次の機能が有効になっている場合には、ユーザ毎に各機能を有効または無効にすることもできます。

* シェルアクセス

[サイトユーザのインポート/エクスポート]

ユーザをインポートおよびエクスポートすると、ある仮想サイトから別の仮想サイトまたはある ClassCat Cute サーバから別の ClassCat Cute サーバへユーザを容易に移動できます。

サイト管理者は、ユーザ名とその設定を含む特定フォーマットのテキストをアップロードすることにより、仮想サイトにユーザリストをインポートできます。また、仮想サイトのユーザリストを、インポート機能と互換性のあるテキストファイルにエクスポートすることもできます。

これらの機能により、サイト管理者は多数のサイトユーザのアカウントを素早く作成、管理できます。

- TSV テキストファイルの作成 -

ユーザリストをインポートするには、まず最初のステップとして、指定のフォーマットのテキストファイルを生成します。ファイル形式はタブ区切り (TSV) フォーマットを使い、各ユーザ毎に改行してください。各行には、ユーザのパラメータが含まれ、パラメータごとにタブで区切られます。

パラメータの順序は、次のとおりです。

<ユーザ名><Tab><氏名><Tab><パスワード><Tab><電子メールエイリアス><Tab><よみがな>

ユーザに複数の電子メールエイリアスを含めるには、各エイリアスを半角スペースで区切ります。

ユーザの最大許容ディスク容量やサイト管理者の権限など、サイトユーザのその他のパラメータは、サイトユーザ毎にファイルで指定することはできません。

ご参考 : サイト管理者がサイトユーザに特定サービスを提供するには、サーバ管理者がその仮想サイトに対してそのサービスを有効にしておく必要があります。

- ユーザのインポート -

[インポート] メニュー項目を選ぶと、[ユーザリストのインポート] テーブルが表示されます。

図 : ユーザリストのインポートテーブル



[ユーザーリストのインポート] テーブルでは次の項目を設定します。

- **ソースファイル** : システムにアップロードするユーザーリストを含む TSV (タブ区切り) フォーマットファイルが保存されている場所を指定します。インターネット上のウェブサイトからファイルを直接ダウンロードするには、http:// または ftp:// で始まる URL を入力してください。あるいは、アップロードするファイルへのパスを入力してください。ローカルハードドライブ上に保管されているファイルをアップロードする場合には、[参照] をクリックしてファイルを選択してください。
- [インポートを開始する] ボタンをクリックします。インポートを確認するダイアログが表示されます。

続行すると、進行状況を示す画面が表示され、何行のテキストファイルが処理されたか、何名のユーザが追加されたかを示します。

エラーが発生すると、ファイル内の全ての行を処理し終わったときに、そのサマリー報告が表示されます。サマリーは、どの行でエラーが起こり、なぜユーザが追加されなかったかを報告します。

エラーが発生せずに処理が完了すると、新しく追加されたユーザを含んだ [ユーザのリスト] テーブルが表示されます。

- ユーザのエクスポート -

サイト管理者は、仮想サイトのユーザーリストを、上記のインポート機能と互換性のあるテキストファイルにエクスポートできます。ファイルはローカルコンピュータにダウンロードされます。

ただし、パスワードの保管には暗号化アルゴリズムが使われるため、各ユーザの実際のパスワードは復元できません。そのため、エクスポートする各ユーザに割り当てる一時的なパスワードの作

成方法が2通り用意されています。

[エクスポート] をクリックすると、サーバからユーザをエクスポートできます。エクスポート機能は、インポート機能と互換性のある TSV (タブ区切り) フォーマットのファイルを戻します。

[エクスポート] メニュー項目を選ぶと、[ユーザリストのエクスポート] テーブルが表示されます。

図 : ユーザリストのエクスポートテーブル

1人のユーザをエクスポートできます。

ユーザリストを target.sub.classcat.com からエクスポート

パスワードの形式 パスワードとしてランダム文字列を生成してエクスポートする ▼

● エクスポートを開始する

[ユーザリストのエクスポート] テーブルでは次の項目を設定します。

- **パスワードの形式** : ユーザのパスワード情報は暗号化して保存されているため、実際のパスワードはエクスポートされません。[パスワードとしてユーザ名をエクスポートする] を選んだ場合には、ユーザはパスワードにログイン名を使えます。[パスワードとしてランダム文字列を生成してエクスポートする] を選ぶと、他のユーザからは簡単に予想できないパスワードが選ばれます。
- [エクスポートを開始する] ボタンをクリックします。ファイルはローカルコンピュータにダウンロードされます。

メーリングリスト

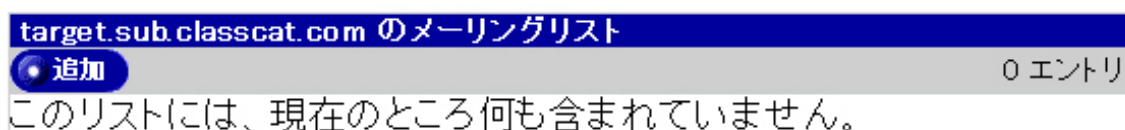
このメニュー項目は、メーリングリストの管理に使います。メーリングリストは、共通の仕事や興味を持つユーザがグループ内で電子メールによるディスカッションを行う場を提供します。メーリングリストには、new_project などの固有の名前を付けます。ClassCat Cute サーバ上の登録ユーザだけでなく、外部のユーザもメーリングリストに含めることができます。

メーリングリスト名を宛先アドレスとするメッセージは、リストに登録されているユーザ（「購読者」と呼ばれます）全員に配信されます。

メーリングリストのメッセージに返信する場合、メッセージの送信者にだけ返信することもできれば、リストの購読者全員に返信することもできます。この機能は、お使いの電子メールクライアントに応じて異なります。

[メーリングリスト] メニュー項目を選ぶと、[メーリングリスト] テーブルが表示されます。

図 : メーリングリストテーブル



1. メーリングリストを追加するには、[保存] ボタンをクリックします。
[基本]、[購読者]、[詳細] タブを使って、メーリングリストを設定します。

図 : メーリングリストの追加テーブル - 基本タブ



2. [基本] タブをクリックし、次の項目を設定します。
 - **リスト名** : 追加したいメーリングリストの名前を入力します。リスト名には、半角の英小文字、数字、ハイフン、アンダースコアだけが使えます (例 : eigyo、raq550、shomu_2 など)。
 - **備考** : このメーリングリストに関する説明やコメントを入力できます。
3. [購読者] タブをクリックします。
図に示すテーブルが表示されます。

図：メーリングリストの追加テーブル - 購読者タブ

target.sub.classcat.com へメーリングリストを追加する

基本 購読者 詳細

登録ユーザ 0 人購読中 編集

外部購読者

保存 キャンセル

4. 次の設定情報を入力します。

- **登録ユーザ**：[編集] ボタンをクリックすると、登録ユーザの検索や購読者の追加を行います。図に示すテーブルが表示されます。このテーブルでは、ユーザの検索や、メーリングリストへのユーザの追加を行います。
- **外部購読者**：このメーリングリストを購読する外部購読者を指定します。外部購読者とはこの ClassCat Cute サーバ上にアカウントを持っていないユーザを意味します。電子メールアドレスを正しい形式で入力してください（例：user@example.com など）。

図：ユーザの検索およびメーリングリストへのユーザの追加テーブル

ユーザの検索

検索 検索

ユーザ全員を表示 選択されているユーザのみ表示

target.sub.classcat.com の登録ユーザ全員

ユーザ全員を選択 このページのユーザ全員を選択 0 エントリ

このリストには、現在のところ何も含まれていません。

選択されているユーザを購読者に加える キャンセル

5. [詳細] タブをクリックし、次の項目を設定します。

図の画面が表示されます。

- **リスト管理者**：このメーリングリストのすべての管理業務（購読の許可や投稿メッセー

ジの管理など)を行っているユーザの電子メールアドレスを入力します。電子メールアドレス (リモートユーザの場合) またはこの ClassCat Cute サーバ上の登録ユーザのユーザ名 (ローカルユーザの場合) を入力してください。デフォルトは admin です(例 : shibuya@cobalt.co.jp、 yasuda など)。

- **パスワード** : このメーリングリストの管理者パスワードを指定します。このパスワードは、電子メールを使ってリスト管理業務を行う際に必要になります。電子メールによるリスト管理を行わない場合には、パスワードを省略しても構いません。
- **投稿ポリシー** : このメーリングリストへ投稿する際に適用されるポリシーを選択します。
 - * **購読者のみが投稿できる** : このメーリングリストのメンバーのみがメッセージを投稿できます。
 - * **全てのユーザが投稿できる** : 電子メールアドレスを持っていて、このメーリングリスト名を知っているユーザは誰でも投稿できます。
 - * **リスト管理者の許可が必要** : メーリングリスト宛のメッセージのうち、リスト管理者が許可したメッセージだけがリストに掲載されます。
- **購読ポリシー** : メーリングリストを購読する際のポリシーを選びます。
 - * **開放** : どのユーザでも自由に購読できます。
 - * **確認** : 購読には電子メールによる確認が必要です。
 - * **限定** : 購読にはリスト管理者の許可が必要です。

ご参考 : 購読を開始または中止するには、各ユーザが、電子メールの本文に「subscribe リスト名」(購読する場合) または「unsubscribe リスト名」(購読を中止する場合) と記述して、[majordomo@thishost.thisdomain.com] 宛に送信してください。ポリシーが [限定] の場合には、購読するには、リスト管理者の許可が必要です。購読を中止するには許可は必要ありません。

- **最大メッセージサイズ** : メーリングリスト宛に送信されるメッセージの最大サイズをキロバイトまたはメガバイト単位で指定します。ここで指定するサイズを超えるメッセージは受信を拒否されます。
- **返信ポリシー** : このメーリングリストの返信ポリシーを指定します。[リスト宛に返信] を選ぶと、返信はリスト宛に送られます。[投稿者宛に返信] を選ぶと、返信はメッセージの投稿者にのみ送られます。

図：メーリングリストの追加テーブル – 詳細タブ

target.sub.classcat.com ホームページリストを追加する	
基本 購読者 詳細	
リスト管理者	<input type="text" value="admin"/>
パスワード	<input type="password"/>
ポリシーの設定	
投稿ポリシー	購読者のみが投稿できる ▼
購読ポリシー	開放: どのユーザでも自由に購読できる ▼
最大メッセージサイズ	50 KB ▼
返信ポリシー	投稿者宛に返信 ▼

一般設定

このメニュー項目は、サイトの設定を変更したり、サービスを設定するときに使います。

[一般設定] メニュー項目を選ぶと、[仮想サイトの設定] テーブルが表示されます。

図：仮想サイトの設定テーブル

仮想サイトの設定 – target.sub.classcat.com	
IP アドレス	<input type="text" value="192.168.0.200"/>
ホスト名とドメインネーム	<input type="text" value="target"/> <input type="text" value="sub.classcat.com"/>
	ホスト名 ドメインネーム
最大許容ディスク容量 (MB)	<input type="text" value="400"/> (1 - 16,129)
ユーザの最大数	<input type="text" value="25"/>
自動 DNS 設定	<input checked="" type="checkbox"/>
サスペンド	<input type="checkbox"/>

1. 次の設定情報を入力します。

- **IP アドレス** : サイトの IP アドレスを入力します。
- **ホスト名とドメインネーム** : 最初のフィールドにこのサイトのホスト名、次のフィールドにドメインネームを入力します (指定例 : ホスト名は www、mail など、ドメインネームは example.com、cobalt.com など)。
- **最大許容ディスク容量 (MB)** : このサイトがファイルの保存に利用できる ClassCat Cute 上の最大許容ディスク容量をメガバイト (MB) を単位として指定します。
- **ユーザの最大数** : サイトで作成できるユーザアカウントの最大数を指定します。
- **自動 DNS 設定** : 自動 DNS 設定を使うと、このサイトの DNS レコードを管理できます。ウェブサーバと電子メールサーバの別名は、サイトのドメインネームを共有している場合のみサポートされています。このサービスでは、ドメインネームはトップレベルの登録業者には登録されません。
- **サスペンド** : このボックスをチェックすると、サイトのユーザは、FTP、パブリックウェブ、サイト宛の電子メールなどのサービスにアクセスできない他、サイトへアクセスできなくなります。

サービス

このメニュー項目は、サイトの各種サービスの設定に使用します。

[ウェブ]

このメニュー項目は、スクリプト言語などのウェブオプションの設定に使用します。

[ウェブ] メニュー項目を選ぶと、図のような [ウェブ設定] テーブルが表示されます。

図 : ウェブ設定テーブル

ウェブ設定 - target.sub.classcat.com	
PHP スクリプトを有効にする	<input type="checkbox"/>
CGI (Common Gateway Interface) を有効にする	<input type="checkbox"/>
SSI (Server-Side Includes) を有効にする	<input type="checkbox"/>
ウェブサーバの別名 (省略可)	<input type="text"/>

1. 次の設定情報を入力します。

- **PHP スクリプトを有効にする** : PHP スクリプトの使用を有効にできます。ウェブプログラミングでは、PHP は、無料で利用できるスクリプト言語かつインタプリタです。PHP スクリプトは、HTML と共にウェブページ内に埋め込まれます。ユーザのリクエストに応じてページを送信する前に、ウェブサーバは PHP を呼び出し、スクリプトで呼び出された操作を実行します。PHP スクリプトを含む HTML ページは、一般に、[.php]、[.php3]、[.phtml] の接尾辞の付いたファイル名が付いています。PHP は、コンテンツがスクリプトの解釈の結果に応じて変わるため「動的 HTML ページ」と考えることができます。
- **CGI (Common Gateway Interface) を有効にする** : CGI アプリケーションの使用を有効にできます。CGI プログラムは、ウェブサーバがユーザと動的にかかわる最も一般的な方法です。例えば、フォームなどを含む HTML ページの多くでは、フォームの提出時のデータ処理に CGI プログラムが使われます。CGI は、処理がウェブサーバ上で行われるため、サーバサイドのソリューションと言われます。
- **SSI (Server Side Includes) を有効にする** : SSI は、HTML ページにおかれ、ページを処理されるときにサーバ上で評価される指示語です。SSI を使うと、CGI プログラムやその他の動的テクノロジーを使って全ページを処理しなくても、動的に作成されたコンテンツを既存の HTML ページに追加できます。

SSI を使う場合と何らかのプログラムを使って全ページを生成する場合を決定するのは、一般に、ページのスタティックの度合いと、ページが処理される度に再計算される量によります。SSI は、現在の時刻などの小さな情報を追加するよい方法です。しかし、ページ

の大部分が、処理される度に作成されている場合には、別のソリューションを探す必要があります。

- **ウェブサーバの別名 (省略可)** : 仮想サイトがウェブリクエストを受信するホスト名またはドメイン名の別名を指定します。複数の別名を入力する場合は、カンマで区切ってください (指定例 : example.com、www.example.com) 。別名のアドレスを変換するには、サイト名のほかに DNS も設定する必要があります。ウェブサーバの別名を追加すると、サイトの設定で指定したドメイン名以外でもウェブリクエストを受信できます。

2. [保存] ボタンをクリックします。

[匿名 FTP]

このメニュー項目は、ファイル転送プロトコル (FTP) 設定を変区するときに使います。この機能は、サーバ管理者だけが行えます。

サーバ管理者は、任意の仮想サイトで匿名 FTP サーバを有効にし、アップロードを許可するファイルの最大サイズと、同時にアクセスできる匿名ユーザの人数を指定できます。匿名 FTP を有効にすると、パスワードを持たないユーザでも、ファイルを FTP からダウンロードしたり、FTP へアップロード (指定サイズ以内) することができます。

ただし、サーバ管理者が匿名 FTP を設定できるのは、各 IP アドレスにつき仮想サイト (名前ベース) 1 つだけです。複数のサイトが同じ IP アドレスを共有している場合には、2 番目以降の仮想サイト (名前ベース) では匿名 FTP を有効にできません。

[FTP] メニュー項目を選ぶと、図のような [匿名 FTP の設定] 画面が表示されます。

図 : 匿名 FTP の設定テーブル

匿名 FTP の設定 - target.sub.classcat.com	
匿名 FTP	<input type="checkbox"/> 匿名 FTP を有効にする
	最大許容 アップロードディスク容量 (MB) <input type="text" value="20"/> (1 - 400)
	最大同時接続者数 <input type="text" value="10"/>

保存

1. 次の設定情報を入力します。
 - **匿名 FTP を有効にする** : このボックスをチェックすると、匿名 FTP が有効になります。
 - **最大許容アップロードディスク容量 (MB)** : 匿名 FTP によりアップロードされるファイルの保存に使う最大ディスク容量を指定します。
 - **最大同時接続数** : FTP サーバへ同時にアクセスを許可するユーザの最大数を指定します。
2. [保存] ボタンをクリックして設定を保存します。

匿名 FTP 経由でファイルをダウンロードするには、「guest」または「anonymous」というユーザ名で FTP サイトにログオンします。パスワードは必要ありません。これらのいずれかのユーザ名でログオンすると、/home/sites/<サイト名>/ftp/ というディレクトリに入ります。サイト管理者がここにファイルをアップロードしておく、匿名ユーザは FTP クライアントソフトウェアやウェブブラウザを使ってそれをダウンロードできます。

サイト管理者は、匿名 FTP ディレクトリの /ftp にアクセスできます。

匿名ユーザがファイルをアップロードするには、Fetch などの FTP ソフトウェアを使って /home/sites/<サイト名>/ftp/incoming/ というディレクトリにアクセスします。匿名ユーザは、自分がアップロードしたファイルを見ることができません。Telnet/Shell アクセス権を持つ、そのサイトの登録ユーザは全員、アップロードされたファイルへアクセスできますが、FTP を介してファイルにアクセスできるのはサイト管理者だけです。

最大許容アップロードディスク容量は、匿名 FTP アップロードに割り当てるディスク容量の合計です。

[電子メール]

このメニューは、仮想サイトの電子メールオプションの設定に使用します。

[電子メール] メニュー項目を選ぶと、図のような [電子メールの設定] 画面が表示されます。

図：電子メール設定テーブル

電子メール設定 - target.sub.classcat.com	
電子メールサーバの別名 (省略可)	<input type="text"/>
キャッチオール電子メールアドレス (省略可)	<input type="text"/>

1. 次の設定情報を入力します。

- **電子メールサーバの別名 (省略可)**：仮想サイトが電子メール (SMTP ポート 25) を受信するホスト名またはドメイン名の別名を指定します。複数の別名を入力する場合は、カンマで区切ってください (例：example.com、mail.example.com)。電子メールサーバの別名を追加すると、サイトの設定で指定した hostname.domainname 以外でも電子メールを受信できます。
- **キャッチオール電子メールアドレス (省略可)**：存在しないユーザやメーリングリスト宛のメッセージを受信するための電子メールアドレスを指定します。このフィールドを空欄のままにすると、存在しないユーザやメーリングリスト宛の電子メールは受信を拒否されます。

2. [保存] ボタンをクリックして設定を保存します。

[シェル]

このメニュー項目は、サイトのシェルを設定するときに使います。この機能は、サーバ管理者だけが行えます。

[シェル] メニュー項目を選ぶと、図のような [シェルの設定] 画面が表示されます。

図：シェルの設定テーブル

シェルの設定 - target.sub.classcat.com	
シェルアクセスを有効にする	<input type="checkbox"/>

[保存](#)

1. [シェルアクセスを有効にする] チェックボックスをチェックすると、シェルアクセスが有効になります。シェルアクセスを有効にすると、Telnet や SSH などのサービスを使ってサーバに接続できるユーザが作成できます。
2. [保存] ボタンをクリックして設定を保存します。

利用状況

このメニュー項目は、サイトのリソースの利用状況に関する情報を表示するときに使います。

[ウェブ]

このメニュー項目は、ウェブの利用状況の表示を設定するときに使います。

1. このメニュー項目を選ぶと、[統計オプションの設定] テーブルが表示されます。

図：統計オプションの設定テーブル

統計オプションの設定 - target.sub.classcat.com	
開始日時	2004 年 4 月 01 日
終了日時	2004 年 4 月 10 日

[統計を更新する](#)

2. この統計に含まれる報告期間の開始日時と終了日時を指定します。
3. [統計を更新する] ボタンをクリックすると、ウェブの利用状況が表示されます。

[FTP]

このメニュー項目は、FTP の利用状況の表示を設定するときに使います。

1. このメニュー項目を選ぶと、[統計オプションの設定] テーブルが表示されます。

図： 統計オプションの設定テーブル

統計オプションの設定 - target.sub.classcat.com	
開始日時	2004 年 4 月 01 日
終了日時	2004 年 4 月 10 日

統計を更新する

2. この統計に含まれる報告期間の開始日時と終了日時を指定します。
3. [統計を更新する] ボタンをクリックすると、FTP の利用状況が表示されます。

[電子メール]

このメニュー項目は、電子メールの利用状況の表示を設定するときに使います。

1. このメニュー項目を選ぶと、[統計オプションの設定] テーブルが表示されます。

図： 統計オプションの設定テーブル

統計オプションの設定 - target.sub.classcat.com	
開始日時	2004 年 4 月 01 日
終了日時	2004 年 4 月 10 日

統計を更新する

2. この統計に含まれる報告期間の開始日時と終了日時を指定します。
3. [統計を更新する] ボタンをクリックすると、電子メールの利用状況が表示されます。

[ディスク]

このメニュー項目は、ディスクの使用状況の表示を設定するときに使います。

1. [ディスク] メニュー項目を選ぶと、図のような [ディスク使用状況] テーブルが表示されます。

[ディスク使用状況] テーブルには、ホスト名別、システム別、ユーザ別のディスク使用状況が表示されます。

図 : ディスク使用状況テーブル

target.sub.classcat.com のディスク使用状況	
使用容量 (MB)	0.11
空き容量 (MB)	399.89
使用率	 0%

システムのディスク使用状況				
2 エントリ				
	サービス ▼	使用容量 (MB) ▼	割当容量 (MB) ▼	使用率
●	匿名 FTP	0.00	20	 0%
●	利用状況のログ	0.02	400	 0%

ユーザのディスク使用状況				
1 エントリ				
	ユーザ名 ▼	使用容量 (MB) ▼	割当容量 (MB) ▼	使用率
●	t-site-admin	0.02	20.00	 0%

[設定]

このメニュー項目は、サイトの利用状況と統計の作成を設定するときに使います。

1. [設定] メニュー項目を選ぶと、図のような [利用状況の設定] テーブルが表示されます。

図： 利用状況の設定テーブル

利用状況の設定 - target.sub.classcat.com	
統計情報の生成を有効にする	<input checked="" type="checkbox"/>
詳細レベル	毎日 ▼
統計情報の履歴	永久 ▼

● 保存

2. [統計情報の生成を有効にする] ボックスをチェックすると、仮想サイトのウェブ、FTP、電子メールの使用状況の作成が有効になります。
3. [詳細レベル] ドロップダウンボックスを使うと、毎日の統計情報ファイルを1つの毎月の統計情報ファイルにまとめるかどうかを指定できます。
4. [統計情報の履歴] ドロップダウンボックスを使うと、統計情報の履歴に含める期間を指定できます。長い期間を指定すると、ディスク容量の大きな長い履歴を含む統計情報が作成されます。

個人プロフィール

本章では、ユーザのアカウント情報の表示について説明します。

ClassCat Cute サーバにログインすると、サーバデスクトップのユーザインターフェイス (UI) の画面上のメニューバーに [個人プロフィール] タブが表示されます。[個人プロフィール] タブをクリックすると、画面の左側にアカウントのメニュー項目が表示されます。ここでは、各コマンドの使用方法について説明します。

次のアカウントメニュー項目が、画面左に表示されます。

- アカウント情報
- 電子メール
- ディスクの使用状況

アカウント情報

アカウント情報セクションでは、アカウントのユーザ氏名の変更、言語設定、パスワードの変更を行えます。

アカウント情報を修正するには、次の操作を行います。

1. 画面上の [個人プロフィール] タブをクリックします。
2. 画面左の [アカウント情報] をクリックします。[アカウント情報 < ユーザ名>] テーブルが表示されます。

図：アカウント情報テーブル

アカウント情報 - admin	
氏名	<input type="text" value="管理者"/>
言語設定	<input type="text" value="日本語"/>
新しいパスワード (省略可)	<input type="text"/> <input type="text"/> (再度入力)

3. 次のフィールドを必要に応じて修正してください。
 - **氏名**：このフィールドへの入力必須です。ログインアカウントのユーザ氏名を修正します。
 - **言語設定**：ClassCat Cute サーバでは、日本語と英語がサポートされています。「ブラウザのオプションから設定」を選ぶと、ブラウザの言語設定が ClassCat Cute Server Manager の表示言語として使われます。英語を選ぶ場合には、必ずブラウザの文字コードも英語に設定してください。ブラウザの言語設定が日本語または英語以外に設定されている場合には、ClassCat Cute Server Manager の表示言語として英語が使われません。
 - **新しいパスワード (省略可)**：パスワードを変更できます。パスワードは確認のため、2度入力します。

4. [保存] ボタンをクリックします。

電子メール

電子メールセクションには、「電子メール転送」と「不在時自動応答メッセージ」の2つのオプションがあります。

図：電子メール設定テーブル

電子メール設定 - admin	
電子メール転送	<input type="checkbox"/> 有効にする 転送先アドレス <input type="checkbox"/> コピーを保存
不在時自動応答メッセージ	<input type="checkbox"/> 有効にする 自動応答メッセージ

電子メールの転送

この機能を使うと、このユーザアカウント宛の電子メールを別の電子メールアカウントに転送できます。

[電子メール転送を有効にする]

電子メール転送を有効にするには、次の操作を行います。

1. [電子メール転送] 欄の右にある [有効にする] チェックボックスをクリックします。
2. [転送先アドレス] スクロールウィンドウに、転送先の電子メールアドレスを [<xxxxx@yyy.zzz>](#) の形式で入力します。
複数の電子メールアドレスを入力する場合には、各アドレスをコンマで区切るか、各アドレスごとに改行してください。
3. [コピーを保存] チェックボックスをクリックして有効にしておくと、転送する電子メールのコピーを保存できます。
4. [保存] ボタンをクリックします。

[電子メール転送を無効にする]

電子メール転送を無効にするには、次の操作を行います。

1. このテーブルの[電子メール転送] 欄の右にある [有効にする] ボックスのチェックを外します。
2. [保存] ボタンをクリックします。

不在時自動応答の設定

この機能を使うと、受信した電子メールに対して自動的に返信メッセージが送られます。休暇などで長期間メールを読めない場合などにこの機能を設定しておく便利です。

同じ送信者に対しては、不在時自動応答メールは毎週一通しか送信されません。

[不在時自動応答を有効にする]

不在時自動応答の設定は、次の手順で行います。

1. このテーブルの [不在時自動応答メッセージ] 欄の右にある [有効にする] チェックボックスをクリックします。
2. [自動応答メッセージ] スクロールウィンドウに、不在中、ユーザに自動送信したいメッセージを記述します。
3. [保存] ボタンをクリックします。

[不在時自動応答を無効にする]

不在時自動応答の解除は、次の手順で行います。

1. このテーブルの [不在時自動応答メッセージ] 欄の右にある [有効にする] ボックスのチェックを外します。
2. [保存] ボタンをクリックします。

ディスクの使用状況

ディスクの使用状況セクションには、現在使用しているディスク容量、ディスク上の空き容量、使われているディスク容量の比率が表示されます。


ディスクの使用状況の表示

ディスクの使用状況を表示するには、次の操作を行います。

1. 画面上の [個人プロフィール] タブをクリックします。
2. 画面左の [ディスクの使用状況] をクリックします。[ディスクの使用状況] テーブルに使用状況データが表示されます。

このテーブルには、使用ディスク容量 (MB)、空きディスク容量 (MB)、使用率が表示されます。

図 : ディスクの使用状況テーブル

ディスクの使用状況 - admin	
使用容量(MB)	1.21
空き容量(MB)	16,095.54
使用率	 0%